

令和元事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 令和元事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36回 ・開催日数 288日

(内訳)

| 競馬場 | 開催回数 | 開催日数 | 競馬場 | 開催回数 | 開催日数 |
|-------|------|------|-------|------|------|
| 札幌競馬場 | 2回 | 12日 | 東京競馬場 | 5回 | 45日 |
| 函館競馬場 | 2回 | 12日 | 中京競馬場 | 4回 | 26日 |
| 福島競馬場 | 3回 | 20日 | 京都競馬場 | 5回 | 44日 |
| 新潟競馬場 | 3回 | 26日 | 阪神競馬場 | 5回 | 42日 |
| 中山競馬場 | 5回 | 41日 | 小倉競馬場 | 2回 | 20日 |

② 発売金及び開催競馬場入場人員

| | |
|------|----------------------|
| 発売金 | 2兆9,117億0,850万1,300円 |
| 入場人員 | 623万6,197名 |

③ 国庫納付金

| | |
|---------|--------------------|
| 第1国庫納付金 | 2,899億5,622万8,310円 |
| 第2国庫納付金 | 305億7,183万7,819円 |

④ 主な業績項目の数値

| 項目 | 数式 | 当該事業年度数値 | |
|---------------|----------|---------------|-------------|
| 競馬開催計画 達成率 | 開催回数 | 開催実施回数／開催計画回数 | 100% |
| | 開催日数 | 開催実施日数／開催計画日数 | 100% |
| 職員一人当り の効率 | 対売上収入 | 売得金額／職員数 | 1,642,811千円 |
| | 対入場人員 | 入場人員数／職員数 | 3,533人 |
| 対売上収益率 | 剰余金／売得金額 | 2.10% | |

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

| 登録の種類 | 〔J R A所属〕 | | | 〔その他〕 ※ i ii | |
|-------|-----------|--------|---------|--------------|------|
| | 登録の数 | 取消の数 | 本事業年度末数 | 国際関係 | 地方関係 |
| 馬主の登録 | 165名 | 70名 | 2,568名 | 0(2)名 | 31名 |
| 競走馬登録 | 5,528頭 | 5,322頭 | 8,803頭 | 0(0)頭 | 76頭 |
| 服色の登録 | 132件 | 89件 | 1,978件 | 0(2)件 | — |

- ※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
 ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

| 免許の種類 | 〔J R A所属〕 ※ i ii | | | 〔その他〕 ※ iii iv v vi | | | |
|--------|------------------|------|---------|---------------------|------|------|------|
| | 免許の数 | 取消の数 | 本事業年度末数 | 短期 | 国際関係 | 特別条件 | 地方関係 |
| 調教師の免許 | 190名 | 0名 | 190名 | — | 0名 | — | 68名 |
| 騎手の免許 | 141名 | 3名 | 138名 | 12名 | 5名 | 1名 | 71名 |

- ※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
 iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
 v 「特別条件」：特別条件該当者に対する臨時試験による1日限定の免許者数
 vi 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（平成30年購買の2歳馬75頭及び令和元年購買の1歳馬75頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳馬9頭、1歳馬9頭及び2歳馬6頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、7名が卒業しました。令和元事業年度末現在の在校生数は21名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 25,880,584,536 円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 4,566,022,535 円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 3,161,942,790 円

2号給付金 3,309,726,020 円

合計金額 6,471,668,810 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 1,320,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 1,150,264,300 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

| 事業年度 | 平成 28 年 | | 平成 29 年 | | 平成 30 年 | |
|-------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
| | 開催回数 | 開催日数 | 開催回数 | 開催日数 | 開催回数 | 開催日数 |
| 札幌競馬場 | 2 回 | 12 日 | 2 回 | 12 日 | 2 回 | 12 日 |
| 函館競馬場 | 2 回 | 12 日 | 2 回 | 12 日 | 2 回 | 12 日 |
| 福島競馬場 | 3 回 | 20 日 | 3 回 | 20 日 | 3 回 | 20 日 |
| 新潟競馬場 | 3 回 | 26 日 | 3 回 | 26 日 | 3 回 | 26 日 |
| 中山競馬場 | 5 回 | 41 日 | 5 回 | 41 日 | 5 回 | 41 日 |
| 東京競馬場 | 5 回 | 45 日 | 5 回 | 45 日 | 5 回 | 45 日 |
| 中京競馬場 | 4 回 | 26 日 | 4 回 | 26 日 | 4 回 | 26 日 |
| 京都競馬場 | 5 回 | 45 日 | 5 回 | 44 日 | 5 回 | 44 日 |
| 阪神競馬場 | 5 回 | 41 日 | 5 回 | 42 日 | 5 回 | 42 日 |
| 小倉競馬場 | 2 回 | 20 日 | 2 回 | 20 日 | 2 回 | 20 日 |
| 合 計 | 36 回 | 288 日 | 36 回 | 288 日 | 36 回 | 288 日 |

② 発売金及び開催競馬場入場人員

| 事業年度 | 発 売 金 | 入場人員 |
|---------|---------------------|-------------|
| 平成 28 年 | 2,688,449,518,700 円 | 6,300,662 名 |
| 平成 29 年 | 2,768,992,863,200 円 | 6,175,238 名 |
| 平成 30 年 | 2,816,163,708,300 円 | 6,266,912 名 |

③ 国庫納付金

| 事業年度 | 第 1 国庫納付金 | 第 2 国庫納付金 |
|---------|-------------------|------------------|
| 平成 28 年 | 268,039,029,810 円 | 29,325,628,755 円 |
| 平成 29 年 | 275,783,957,790 円 | 29,657,225,757 円 |
| 平成 30 年 | 280,587,814,500 円 | 27,734,370,621 円 |

④ 主な業績項目の数値

| 項 目 | | 平成 28 年 | 平成 29 年 | 平成 30 年 |
|---------------|-------|--------------|--------------|--------------|
| 競馬開催計画 達成率 | 開催回数 | 100% | 100% | 100% |
| | 開催日数 | 100% | 100% | 100% |
| 職員一人当り の効率 | 対売上収入 | 1,529,030 千円 | 1,568,736 千円 | 1,591,536 千円 |
| | 対入場人員 | 3,594 人 | 3,512 人 | 3,554 人 |
| 対売上収益率 | | 2.18% | 2.15% | 1.97% |

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

| 事業年度 | 〔JRA所属〕 | | 当該事業年度末数 | 〔その他〕 ※ i ii | |
|---------|---------|-------|----------|--------------|------|
| | 登録の数 | 取消の数 | | 国際関係 | 地方関係 |
| 平成 28 年 | 147 名 | 125 名 | 2,382 名 | 2(6)名 | 30 名 |
| 平成 29 年 | 135 名 | 117 名 | 2,400 名 | 5(5)名 | 38 名 |
| 平成 30 年 | 176 名 | 103 名 | 2,473 名 | 5(7)名 | 71 名 |

② 競走馬登録

| 事業年度 | 〔JRA所属〕 | | 当該事業年度末数 | 〔その他〕 ※ i ii | |
|---------|---------|---------|----------|--------------|-------|
| | 登録の数 | 取消の数 | | 国際関係 | 地方関係 |
| 平成 28 年 | 5,445 頭 | 4,972 頭 | 8,262 頭 | 4(4)頭 | 92 頭 |
| 平成 29 年 | 5,358 頭 | 5,192 頭 | 8,428 頭 | 7(7)頭 | 106 頭 |
| 平成 30 年 | 5,392 頭 | 5,223 頭 | 8,597 頭 | 7(7)頭 | 116 頭 |

③ 服色の登録

| 事業年度 | 〔JRA所属〕 | | 当該事業年度末数 | 〔その他〕 ※ i |
|---------|---------|-------|----------|-----------|
| | 登録の数 | 取消の数 | | 国際関係 |
| 平成 28 年 | 113 件 | 119 件 | 1,896 件 | 2(6)件 |
| 平成 29 年 | 140 件 | 132 件 | 1,904 件 | 5(5)件 |
| 平成 30 年 | 136 件 | 105 件 | 1,935 件 | 5(7)件 |

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

| 事業年度 | 〔J R A所属〕 ※ i ii | | | 〔その他〕 ※ iv v | |
|---------|------------------|------|----------|--------------|-------|
| | 免許の数 | 取消の数 | 当該事業年度末数 | 国際関係 | 地方関係 |
| 平成 28 年 | 199 名 | 2 名 | 197 名 | 4 名 | 83 名 |
| 平成 29 年 | 200 名 | 0 名 | 200 名 | 7 名 | 94 名 |
| 平成 30 年 | 193 名 | 1 名 | 192 名 | 7 名 | 105 名 |

② 騎手の免許

| 事業年度 | 〔J R A所属〕 ※ i ii | | | 〔その他〕 ※ iii iv v | | |
|---------|------------------|------|----------|------------------|------|-------|
| | 免許の数 | 取消の数 | 当該事業年度末数 | 短期 | 国際関係 | 地方関係 |
| 平成 28 年 | 133 名 | 0 名 | 133 名 | 24 名 | 7 名 | 70 名 |
| 平成 29 年 | 136 名 | 2 名 | 134 名 | 14 名 | 12 名 | 101 名 |
| 平成 30 年 | 137 名 | 4 名 | 133 名 | 16 名 | 12 名 | 97 名 |

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数 (延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数 (延人数)
 v 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数 (延人数)

(4) 競走馬の育成

| 事業年度 | 育成頭数 | (内訳) | 当歳馬 | 1歳馬 | 2歳馬 |
|---------|----------|-------|---------|----------|-------|
| | | | 平成 28 年 | 168(20)頭 | 5(5)頭 |
| 平成 29 年 | 167(19)頭 | 6(6)頭 | 79(5)頭 | 82(8)頭 | |
| 平成 30 年 | 169(20)頭 | 9(9)頭 | 81(6)頭 | 79(5)頭 | |

※ ()内は育成した J R A生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

| 事業年度 | 競馬学校卒業者数 | 当該事業年度末在校生数 |
|---------|----------|-------------|
| 平成 28 年 | 6 名 | 18 名 |
| 平成 29 年 | 5 名 | 18 名 |
| 平成 30 年 | 3 名 | 21 名 |

(6) 日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

- ① 平成 28 年、平成 29 年及び平成 30 年の各事業年度において、上記 (1)～(5) の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。
- ② 競馬振興事業

| 事業年度 | 金 額 |
|---------|------------------|
| 平成 28 年 | 17,010,950,160 円 |
| 平成 29 年 | 7,465,342,865 円 |
| 平成 30 年 | 11,326,885,926 円 |

(7) 畜産振興事業

| 事業年度 | 金 額 |
|---------|-----------------|
| 平成 28 年 | 2,567,101,421 円 |
| 平成 29 年 | 3,958,595,216 円 |
| 平成 30 年 | 3,894,828,490 円 |

(8) 払戻金への上乗せ

| 事業年度 | 金 額 |
|---------|-----------------|
| 平成 28 年 | 5,385,899,940 円 |
| 平成 29 年 | 6,141,790,280 円 |
| 平成 30 年 | 6,449,545,420 円 |

(内訳)

| 1 号給付金 | 2 号給付金 |
|-----------------|-----------------|
| 2,662,825,980 円 | 2,723,073,960 円 |
| 3,125,295,820 円 | 3,016,494,460 円 |
| 3,078,455,120 円 | 3,371,090,300 円 |

(9) 競走馬生産振興業務への交付

| 事業年度 | 金額 |
|---------|-----------------|
| 平成 28 年 | 600,000,000 円 |
| 平成 29 年 | 1,000,000,000 円 |
| 平成 30 年 | 2,455,000,000 円 |

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

| 事業年度 | 金額 |
|---------|-----------------|
| 平成 28 年 | 903,396,217 円 |
| 平成 29 年 | 4,410,370,016 円 |
| 平成 30 年 | 737,793,099 円 |

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達状況

平成 28 年、平成 29 年及び平成 30 年の各事業年度について、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条に基づき委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務（令和 4 事業年度までの間）
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（令和 4 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

| 名 称 | 郵便番号 | 住 所 | 電話番号 |
|-------------------|----------|------------------------------|--------------|
| 本 部 | 106-8401 | 港区六本木 6 丁目 11 番 1 号 | 03-3591-5251 |
| 馬 事 公 苑 | 158-8523 | 世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号 | 03-3429-5101 |
| 競 馬 学 校 | 270-1431 | 白井市根 835 番地の 1 | 047-491-0333 |
| 競走馬総合研究所 | 329-0412 | 下野市柴 1400 番 4 号 | 0285-44-0090 |
| 日 高 育 成 牧 場 | 057-0171 | 北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13 | 0146-28-1211 |
| 宮 崎 育 成 牧 場 | 880-0036 | 宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地 | 0985-25-3448 |
| 栗東トレーニング ・センター | 520-3085 | 栗東市御園 1028 番地 | 077-558-0101 |
| 美浦トレーニング ・センター | 300-0493 | 茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2 | 029-885-2111 |
| 札 幌 競 馬 場 | 060-0016 | 札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号 | 011-726-0461 |
| 函 館 競 馬 場 | 042-8585 | 函館市駒場町 12 番 2 号 | 0138-53-1021 |
| 福 島 競 馬 場 | 960-8114 | 福島市松浪町 9 番 23 号 | 024-534-2121 |
| 新 潟 競 馬 場 | 950-3301 | 新潟市北区笹山 3490 番地 | 025-259-3141 |
| 中 山 競 馬 場 | 273-0037 | 船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号 | 047-334-2222 |
| 東 京 競 馬 場 | 183-0024 | 府中市日吉町 1 番地の 1 | 042-363-3141 |
| 中 京 競 馬 場 | 470-1132 | 豊明市間米町敷田 1225 番地 | 052-623-2001 |
| 京 都 競 馬 場 | 612-8265 | 京都市伏見区葭島渡場島町 32 番地 | 075-631-3131 |
| 阪 神 競 馬 場 | 665-0053 | 宝塚市駒の町 1 番 1 号 | 0798-51-7151 |
| 小 倉 競 馬 場 | 802-0841 | 北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号 | 093-962-3236 |

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

| 資本金の総額 | 政府の出資額 | 前期末比増減 |
|-----------------|--------|--------|
| 4,924,129,000 円 | 全額政府出資 | 0 |

4. 役員の数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等 (令和元年末現在)

(1) 役員の数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

| 役 職 | 氏 名 | 任 期 | 経 歴 |
|--------------|-------|-----------------------|------------------------|
| 理 事 長 | 後藤 正幸 | 2017年9月12日～2020年9月11日 | 日本中央競馬会常務理事 |
| 副理事長 | 町田 勝弘 | 2017年3月1日～2020年2月29日 | (一社)JA共済 総合研究所理事長 |
| 常務理事 | 木所 康夫 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会理事 |
| 常務理事 | 山下 正行 | 2018年10月1日～2020年9月30日 | 日本中央競馬会理事 |
| 理 事 | 中村 嘉宏 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会審判部長 |
| 理 事 | 木村 一人 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会 総合企画部長 |
| 理 事 | 吉田 正義 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会競走部長 |
| 理 事 | 吉崎 一郎 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会 東京競馬場長 |
| 理 事 | 福田 正二 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会審判部長 |
| 理 事 | 横田 貞夫 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会 京都競馬場長 |
| 理 事 | 臼田 雅弘 | 2019年3月1日～2021年2月28日 | 日本中央競馬会広報部長 |
| 監 事 | 小日向照夫 | 2019年10月1日～2021年9月30日 | 日本中央競馬会人事部長 |
| 監 事 (非常勤) | 矢島 匡 | 2018年9月16日～2020年9月15日 | 弁護士 |
| 監 事 (非常勤) | 小谷実可子 | 2018年9月16日～2020年9月15日 | NPO法人 日本ホスピタリティ協会理事 |

(3) 役員の変動

- ① 2月28日付けで福井紳弥理事、峯島善弘理事、谷崎潤理事が退任し、翌3月1日付けで福田正二前審判部長、横田貞夫前京都競馬場長、臼田雅弘前広報部長が理事に任命されました。
- ② 3月1日付けで木所康夫常務理事、中村嘉宏理事、木村一人理事、吉田正義理事、吉崎一郎理事が再任されました。
- ③ 10月1日付けで小日向照夫監事が再任されました。

5. 職員の定数及びその増減（令和元年末現在）

| 職員の定数 | 前期末比増減 |
|---------|--------|
| 1, 765人 | 2人 |

6. 日本中央競馬会の沿革

| | |
|-------|---|
| 昭和29年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会の設立（9月16日） 昭和23年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和23年7月13日法律第158号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和29年7月1日法律第205号）により設立 |
| 平成3年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設 |
| 平成17年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成16年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12月24日） <ul style="list-style-type: none"> ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること |
| 平成19年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1号給付金及び2号給付金を交付する業務の新設 |
| 平成24年 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し |

| | |
|-------|---|
| 平成27年 | ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施 |
|-------|---|

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（令和元年末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第8条の2の規定に基づいて設置され、農林水産大臣が任命する委員6人及び理事長の7人により構成されています。

(1) 各委員の氏名、任期及び職名等

| 氏名 | 任期 | 職名等 |
|------------------|----------------------|----------------|
| 片山 雅文 | 2019年9月1日～2022年8月31日 | (株)産経新聞社 常勤監査役 |
| 小林 栄三 (委員長) | 2019年9月1日～2022年8月31日 | 伊藤忠商事(株) 特別理事 |
| 酒井 順子 | 2019年9月1日～2022年8月31日 | エッセイスト |
| 田島 優子 | 2019年9月1日～2022年8月31日 | 弁護士 |
| 眞鍋 昇 | 2019年9月1日～2022年8月31日 | 大阪国際大学 学長補佐 |
| 山西健一郎 (委員長代理) | 2019年9月1日～2022年8月31日 | 三菱電機(株) 特別顧問 |

(2) 経営委員会の開催概要

① 第1回経営委員会（1月24日）

- ・ 平成30年度の中央競馬の実績の報告 ほか

② 第2回経営委員会（2月15日）

- ・ 役員任命について（案）の同意
- ・ 平成31事業年度予算実施計画（案）の議決
- ・ 美浦トレーニング・センター諸施設の改善について（案）の議決 ほか

- ③ 第3回経営委員会（3月12日）
 - ・ 平成30事業年度決算（案）の議決 ほか
- ④ 第4回経営委員会（4月18日）
 - ・ 佐賀競馬場における場外設備の設置及び廃止について（案）の議決
 - ・ 平成30事業年度経営目標の達成状況に係る自己評価について ほか
- ⑤ 第5回経営委員会（5月24日）
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正について（案）の議決
 - ・ 平成30事業年度経営目標の達成状況の評価 ほか
- ⑥ 第6回経営委員会（6月20日）
 - ・ 京都競馬場整備工事について（案）の議決
 - ・ 9月16日の払戻金の率について（案）の議決 ほか
- ⑦ 第7回経営委員会（7月18日）
 - ・ 茨城境場外勝馬投票券発売所の設置について（案）の議決
 - ・ 平成31年度予算総則第7条に係る工事について（案）の議決 ほか
- ⑧ 第8回経営委員会（9月13日）
 - ・ 委員長の選任
 - ・ 委員長代理の選任 ほか
- ⑨ 第9回経営委員会（10月17日）
 - ・ 令和2事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決
 - ・ 平成31年度予算総則第7条に係る工事について（案）の議決 ほか
- ⑩ 第10回経営委員会（11月21日）
 - ・ 令和2事業年度経営目標（案）の決定
 - ・ 令和2事業年度事業計画（案）の議決
 - ・ 令和2事業年度収支予算（案）の議決
 - ・ 12月28日の払戻金の率について（案）の議決
 - ・ 令和2事業年度1号給付金及び2号給付金の交付について（案）の議決 ほか
- ⑪ 第11回経営委員会（12月4日～12月11日） ※書面表決
 - ・ 平成31事業年度収支予算書予算総則第3条第1項に基づく予算額の間接費用について（案）の議決
 - ・ 「日本中央競馬会法第8条の3第2項第6号に該当する経営委員会の議決事項

について」の一部改正等について（案）の議決

（３）委員の異動

- ① ８月３１日付けで青山佳世委員、上田廣一委員、近藤和行委員、矢野秀雄委員、和田紀夫委員が退任し、翌９月１日付けで片山雅文氏、酒井順子氏、田島優子氏、眞鍋昇氏、山西健一郎氏が新たに委員に任命されました。
- ② ９月１日付けで小林栄三氏が委員に再任されました。

１０．運営審議会の概要（令和元年末現在）

日本中央競馬会法第１６条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（１）各委員の氏名、任期及び職名等

| 氏名 | 任期 | 職名等 |
|--------|-----------------------|------------------------|
| 大西 洋 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 日本空港ビルデング(株) 取締役副社長 |
| 大八木 信行 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 日本馬主協会連合会 会長 |
| 岡本 金彌 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 元日本中央競馬会 副理事長 |
| 川崎 麻児 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 日本画家 |
| 木村 貢 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長 |
| 鈴木 淑子 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 競馬ジャーナリスト |
| 高嶋 達佳 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 公益社団法人企業メセナ協議会 会長 |
| 武 豊 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 日本騎手クラブ 会長 |
| 橋田 満 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | (一社)日本調教師会 会長 |
| 松本 好雄 | 2019年9月16日～2021年9月15日 | 中央競馬馬主相互会 会長 |

（２）運営審議会の開催概要

- ① 第１回運営審議会（３月７日）
 - ・ 平成３０事業年度決算（案）について
- ② 第２回運営審議会（５月７日） ※書面表決

- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部を改正する規約（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の一部を改正する通達（案）について
- ③ 第3回運営審議会（10月15日） ※書面表決
 - ・ 令和2事業年度事業計画（案）（「競馬番組の充実」に係る部分）について
- ④ 第4回運営審議会（11月7日）
 - ・ 令和2事業年度事業計画（案）について
 - ・ 令和2事業年度収支予算（案）について
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の改正（案）について

（3）委員の異動

9月16日付けで大西洋氏、大八木信行氏、岡本金彌氏、川崎麻児氏、木村貢氏、鈴木淑子氏、高嶋達佳氏、武豊氏、橋田満氏、松本好雄氏が委員に再任されました。

1 1. 公正審査会議の概要（令和元年末現在）

日本中央競馬会法第20条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（1）各委員の氏名、任期及び経歴

| 氏名 | 任期 | 経歴 |
|-------|---------------------|--------------------------|
| 石木 俊治 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | 元 内閣法制局第四部長 |
| 石原 葵 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | 元 日本中央競馬会副理事長 |
| 井上 美昭 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | 元 関東管区警察局長 |
| 酒井 邦彦 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | 元 広島高等検察庁検事長 |
| 酒井 啓子 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | 千葉大学グローバル 関係融合研究センター長 |
| 福沢 恵子 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | (公財)日本女性学習財団理事 |
| 福地 献一 | 2019年9月7日～2021年9月6日 | (株)朝日新聞社取締役 |

（2）公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議（1月11日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）

- ② 書面審査（1月24日～1月31日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
- ③ 第2回公正審査会議（2月8日）
 - ・ 平成31年度調教師及び騎手免許について
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更2件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
- ④ 書面審査（2月21日～2月27日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
- ⑤ 第3回公正審査会議（3月15日）
- ⑥ 第4回公正審査会議（4月11日）
 - ・ 平成31年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について（44件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
- ⑦ 第5回公正審査会議（5月17日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主代表者による個人馬主登録1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録2件）
- ⑧ 第6回公正審査会議（6月7日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
- ⑨ 第7回公正審査会議（7月4日）
 - ・ 令和元年第2回馬主登録審査に係る馬主登録について（44件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
- ⑩ 第8回公正審査会議（9月13日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定2件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録2件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加2件）
- ⑪ 第9回公正審査会議（10月11日）
 - ・ 馬主登録審査基準の改正について

- ・ 馬主登録について（相続馬限定 2 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
 - ・ 審査請求に対する裁決について
- ⑫ 第 10 回公正審査会議（11 月 8 日）
- ・ 令和元年第 3 回馬主登録審査に係る馬主登録について（61 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 3 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加 1 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
- ⑬ 第 11 回公正審査会議（12 月 4 日）
- ・ 令和 2 年度調教師免許（新規）について
- ⑭ 書面審査（12 月 6 日～12 月 12 日）
- ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）

（3）委員の異動

9 月 7 日付けで石木俊治氏、石原葵氏、井上美昭氏、酒井邦彦氏、酒井啓子氏、福沢恵子氏、福地献一氏が委員に再任されました。

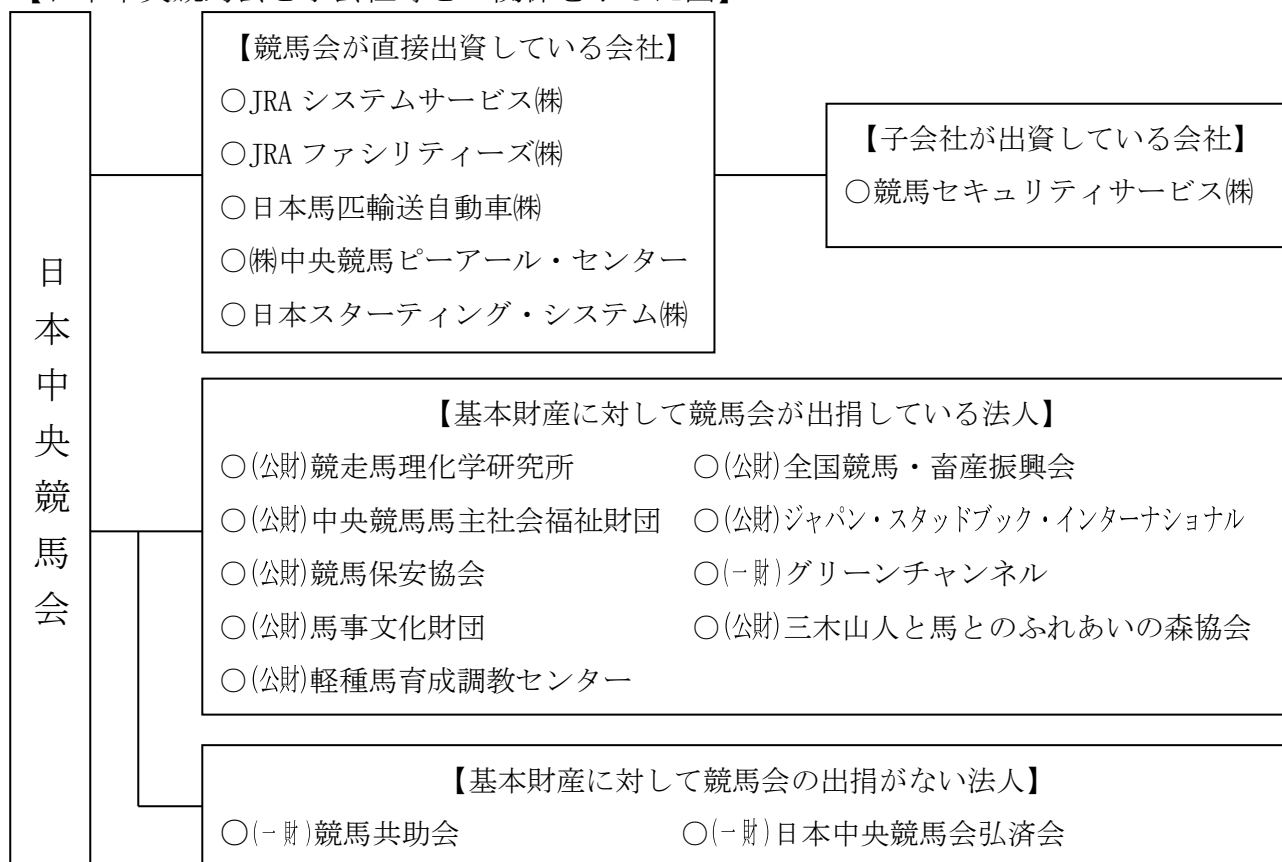
Ⅲ 子会社等に関する事項（令和元事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和 29 年農林省令第 56 号）第 10 条第 3 号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRAシステムサービス(株)、JRAファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(-財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(-財)競馬共助会、(-財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

| 子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合 | 主な事業内容 | 売上高 当期純利益 利益剰余金 (H30 決算額) | 役員数 (うち常勤) 従業員数 | 競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (H30 実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況 |
|---|--|------------------------------------|--------------------------|--|
| JRAシステムサービス㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 代表取締役社長 小林 善一郎 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%) | <ul style="list-style-type: none"> ・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸借並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸借 | (百万円) 18,587 508 6,939 | (人) 14 (11) 518 | ア 14,869百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ・電子計算機等のリース業務 ウ なし |
| JRAファシリティーズ㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都中央区八丁堀 3-19-9 代表取締役社長 横山 清弘 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%) | <ul style="list-style-type: none"> ・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び整備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等 | 19,935 823 10,582 | 15 (12) 447 | ア 15,272百万円 イ ・諸施設の清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ・損害保険代理業務 ウ なし |
| 日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和 22 年 8 月設立】 東京都港区新橋 6-20-11 代表取締役社長 小西 敏之 36,000千円 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・競走馬の輸送 | 1,963 50 1,371 | 5 (3) 94 | ア 1,922百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし |
| ㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和 53 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 代表取締役社長 福井 紳弥 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%) | <ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 | 6,148 169 1,998 | 7 (4) 114 | ア 3,039百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし |
| 日本スターティング・システム㈱ 【昭和 40 年 9 月設立】 東京都港区西新橋 1-22-10 代表取締役社長 水野 豊香 10,000千円 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助 | 1,511 116 837 | 6 (3) 67 | ア 1,496百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし |
| 競馬セキュリティサービス㈱ 【平成 4 年 11 月設立】 東京都港区西新橋 3-2-1 代表取締役社長 峯島 善弘 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合 100%) | <ul style="list-style-type: none"> ・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務 | 3,302 125 2,219 | 5 (3) 107 | ア 2,996百万円 イ ・諸施設の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし |

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

| 関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産 | 主な事業内容 | 年間収入 (H30 決算額) | 役員数 (うち常勤) 従業員数 | 競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H30 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況 |
|---|--|-------------------|-----------------------|--|
| (公財)競走馬理化学研究所 【昭和 40 年 8 月設立】 栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2 理事長 安齊 了 1, 029, 896 千円 | <ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手を使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 | (百万円) 1, 399 | (人) 6 (3) 52 | ア 919 百万円 イ 「日本中央競馬会競馬の施行等に関する規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 <ul style="list-style-type: none"> 競走馬薬物検査業務 薬物検査法の開発に関する研究委託業務 ウ なし |
| (公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和 44 年 10 月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長 畑山 光伸 5, 509, 716 千円 | <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 国又は地方公共団体が後援等を行っている公益事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上昇のための事業 | 579 | 11 (1) 6 | ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 後藤 正幸(競馬会理事長) 理事(非常勤) 木所 康夫(競馬会常務理事) |
| (公財)競馬保安協会 【昭和 46 年 5 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 宮本 和夫 10, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 | 1, 613 | 5 (5) 145 | ア 1, 467 百万円 イ 競馬の公正確保に必要な調査等を実施 ウ なし |
| (公財)馬事文化財団 【昭和 51 年 4 月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長 小島 薫 1, 750, 741 千円 | <ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 | 657 | 6 (2) 24 | ア 283 百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA 競馬博物館」及び「Gate. J」の管理運営等を実施 ウ なし |
| (公財)軽種馬育成調教センター 【平成 3 年 3 月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長 大平 俊明 1, 000, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の競走能力の向上等に関する調査研究 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 | 791 | 6 (2) 38 | ア 490 百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし |
| (公財)全国競馬・畜産振興会 【平成 3 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会長 齊藤 茂 1, 000, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 | 172 | 7 (2) 10 | ア 101 百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし |

| 関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産 | 主な事業内容 | 年間収入 (H30 決算額) | 役員数 (うち常勤) 職員数 | 競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H30 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況 |
|---|---|-------------------|---------------------------|--|
| (公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【平成 22 年 12 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 谷崎 潤 1, 040, 830 千円 | <ul style="list-style-type: none"> ・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行 ・軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 | (百万円) 885 | (人) 6 (3) 35 | ア 475 百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 横田 貞夫(競馬会理事) |
| (一財)グリーンチャンネル 【平成 5 年 9 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 理事長 山川 雅典 1, 000, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び農林水産業に関する通信衛星を利用した放送業務 ・競馬、馬事及び畜産に関する番組の制作及びその支援 | 4, 106 | 8 (4) 24 | ア 76 百万円 イ 通信衛星を利用した中央競馬関連の映像情報に関する番組制作、配信等を実施 ウ なし |
| (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 【平成 6 年 6 月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 仲田 一彦 200, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> ・野外、体験活動等による交流事業の実施 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 | 469 | 8 (1) 17 | ア 183 百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし |
| (一財)競馬共助会 【昭和 23 年 9 月設立】 東京都府中市日吉町 1-1 会長 金田 裕之 1, 500, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> ・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生会館の運営 ・競馬愛好者の利便に資するための厚生施設の管理・運営 ・競馬文化発展に資する事業 | 2, 969 | 7 (3) 85 | ア 583 百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 木村 一人(競馬会理事) |
| (一財)日本中央競馬会弘済会 【昭和 39 年 12 月設立】 東京都港区六本木 6-11-1 会長 鈴木 良治 1, 600, 000 千円 | <ul style="list-style-type: none"> ・畜産に関する調査研究及び資料の収集 ・職員の福利厚生に関する事業 | 164 | 8 (2) 5 | ア なし イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし |

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等をすすめることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和。
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置。
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施。
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表。
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入。

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

4. 「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（平成 30 年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。
なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(令和元事業年度)

－ J R Aは、毎週走り続けます。－

(令和元事業年度事業報告書別冊)

はじめに

令和元事業年度においてJ R Aは、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿った事業活動を行ってまいりました。

競馬の開催においては、お客様が参加しやすい開催日程の設定に取り組み、全国10か所の競馬場において、経営の基本目標の1つである、年間288日（36開催）の競馬を着実かつ円滑に実施することができました。こうした中、平成から令和へ改元となり、中央競馬では「天皇陛下御在位30年慶祝第93回中山記念（GⅡ）競走」、「天皇陛下御即位慶祝 第160回天皇賞（秋）（GⅠ）競走」と、2つの慶祝競走を実施しました。菊花賞では、第一線で活躍を続ける武豊騎手が、昭和・平成・令和の3元号でのGⅠ制覇を達成しました。

また、競走馬の世界では、ディーピンパクトをはじめ、ウオッカやキングカメハメハといった名馬がこの世を去った一方で、アーモンドアイがドバイターフを勝利したのを皮切りに、日本馬が外国の国際競走において年間8勝するなど、目覚ましい活躍を見せた年となりました。

さらに、競馬の公正確保面では、6月に馬用サプリメントから禁止薬物が検出され、多数の出走予定馬を競走から除外することとなり、お客様及び関係者の皆様にご迷惑とご心配をお掛けしました。このようなことを二度と起こさないよう再発防止に向けた取組みを徹底してまいります。

本報告書ではJ R Aが令和元事業年度に実施したこれらの事業活動を事業計画の項目毎に取りまとめました。ここに記載しました様々な施策を着実に実施したことで、お客様に「レースの迫力」「馬の美しさ」「推理の楽しみ」が一体となった競馬の魅力を実感していただき、「夢と感動」をお届けできたものと考えております。

その結果、経営の基本目標の1つである、中央競馬のお客様総数（海外競馬分を含む）は、延べ1億8,546万人余（対前年比103.0%）と、6年連続で前年を上回る結果となりました。また、勝馬投票券の発売金（海外競馬分を含む）も、2兆9,117億円余（対前年比：103.4%）と、8年連続で前年実績を上回りました。

J R Aは、令和元事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、競馬の魅力をもっと向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、様々な施策を実施します。また、J R Aさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくため、競馬の施行が社会全体に与える影響とJ R Aを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化してまいります。

<目次>

○ 平成31事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
2. 競馬の公正確保の徹底・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
3. 競馬への参加促進及び販売促進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 13
4. ホスピタリティの向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 23
5. 馬事振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 24
6. 施設及びコンピュータ・システムの整備・・・・・・・・・・・・ P 26
7. 社会貢献活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 28
8. CSR等の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 30

平成31事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|------------------------------|---------------------|--|
| (1) 開催計画 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 288日(36開催)の競馬開催を全国10か所の競馬場において実施。なお、降雪の影響により、第1回東京競馬第5日(2月9日)を中止。台風の影響により、第4回東京競馬第3日(10月12日)及び第4回東京競馬第4日(10月13日)を中止。それぞれ代替競馬の開催に向けて的確に対応 ○ より多くのお客様にご参加いただくため、土・日曜日以外の祝日における競馬開催を1月14日(祝・月)、4月29日(祝・月)、9月16日(祝・月)及び10月14日(祝・月)に設定。また、年末の開催を12月28日(土)に設定 |
| (2) 重賞競走の改善 | | |
| | ① 開催日割の変更等に伴う実施日の変更 | ○ 開催日割及び3日開催の実施時期の変更等に伴い、一部重賞競走の実施日を変更 |
| | ② みやこステークス(GⅢ)の実施 | ○ 平成30年にJBC競走を実施したことに伴い、休止したみやこステークス(GⅢ)を実施 |
| | ③ 重賞競走の格付け | ○ 葵ステークスを「新設重賞」から「重賞」に変更 |
| (3) 一部オープン競走のリステッド格付け | | ○ 競走体系及び生産の指標として、グレード競走に次ぐ重要な競走であることを明示するため、春季競馬よりオープン競走の中で質の高い競走をリステッド競走として格付け |
| (4) 平地競走における競走条件制度(クラス分け)の改善 | | |
| | ① 平地取得賞金の取扱い | ○ お客様にとってより分かりやすい競走条件制度を確立し、実力の拮抗した魅力ある競走を提供するとともに、競馬番組の一層の充実を図るため、夏季競馬より平地取得賞金の取扱いを変更し、所謂降級制度を廃止 |
| | ② 競走条件の呼称の変更 | ○ 夏季競馬より平地取得賞金の取扱いを変更したことに伴い、お客様にとってより分かりやすくするため、競走条件の呼称を変更 |
| | ③ オープン競走における改善 | ○ リステッド格付けの導入及び降級制度の廃止に伴い、競走内容の充実を図る観点から、オープン競走における取得賞金算入額及び負担重量を改善 |
| (5) 騎手の育成 | | |
| | ① 女性騎手の負担重量への減量適用 | ○ 騎乗機会の拡大を図るため、3月1日より女性騎手に対する負担重量の減量制度を導入 |
| | ② 平地競走における最低負担重量の設定 | ○ 騎手の体位向上及び女性騎手に対する負担重量の減量制度の導入に伴い、騎手の健康面を考慮して、 |

| | | |
|------------------------------|--------------------|---|
| | | 平地競走における最低負担重量を設定 |
| | ③ 若手騎手競走の騎乗資格の緩和 | ○ 見習騎手に対する負担重量の減量が適用されない若手騎手の騎乗機会を拡大するとともに、若手騎手競走を安定的に実施するため、同競走の騎乗資格について通算勝利度数による制限を撤廃し、「免許取得後7年未満の騎手」に変更 |
| | ④ ヤングジョッキーズシリーズの実施 | ○ 見習騎手の騎乗数の増加及び騎乗技術の向上を図るため、中央及び地方所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施 |
| (6) 国内における国際競走への国内外の一流馬の参加促進 | | ○ 年間を通じて国際競走に関する情報提供をパンフレットやウェブサイト等を活用して行うとともに、海外駐在員事務所が有力馬関係者との面談の機会を設けて国内における国際競走への招致活動を実施 ○ 令和元事業年度国内における国際競走への外国調教馬の出走はなし ○ ジャパンカップ振興策の一環として計画が進んでいる東京競馬場馬場内国際厩舎の新設について、関係各所（農林水産省動物衛生課および動物検疫所）と防疫面の連絡調整を実施 |
| (7) 国際的な交流の推進 | | <p>【外国の競走への中央競馬所属馬の参加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外国の競走への中央競馬所属馬の出走を支援し、延べ51頭（うち1頭は出走取消）がアメリカ、カタル、アラブ首長国連邦、オーストラリア、香港、イギリス、アイルランド、フランスに遠征 ○ JRA所属馬の優勝実績（カッコ内は国名と競走馬名） <ul style="list-style-type: none"> ・ドバイターフ（アラブ首長国連邦、アーモンドアイ） ・クイーンエリザベスⅡ世カップ（香港、ウインブライト） ・香港カップ（香港、ウインブライト） ・香港ヴァーズ（香港、グローリーヴェイズ） ・香港マイル（香港、アドマイヤマーズ） ・ナッソーステークス（イギリス、ディアドラ） ・コーフィールドカップ（オーストラリア、メールドグラス） ・コックスプレート（オーストラリア、リスグラシュー） <p>【ワールドオールスタージョッキーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海外及び地方競馬の実力や話題性のある騎手7名（アメリカ、ニュージーランド、アイルランド、フランス、香港、兵庫、大井各1名）を招待して第2回札幌競馬第3・4日に実施 |

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>(8) 競走馬の資質・能力の向上等への取組み</p> | <p>競走馬総合研究所をはじめとする関係部署においては、平成31事業年度の研究計画に沿って競走馬の保健衛生、調教管理、生産及び育成に関する研究を実施。また、その成果を活用し、診療・防疫体制の整備、事故防止及び生産育成基盤の強化等を実施</p> |
| | <p>① 競走馬の資質・能力の向上</p> <p>i) 競走馬の育成を通じた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、サラブレッド市場購買馬（平成30事業年度購買の2歳馬75頭及び令和元事業年度購買の1歳馬75頭）を用いて、育成に関する研究を実施。また、日高育成牧場に繋養しているサラブレッド繁殖牝馬及びその産駒（生産馬：当歳9頭・1歳9頭・2歳6頭）（※1歳9頭のうち2頭及び2歳6頭のうち2頭は宮崎育成牧場に繋養）を用いて、生産・育成に関する研究を実施 ○ 育成研究に供した2歳馬は、4月に中山競馬場で開催したJRAブリーズアップセールにて生産馬4頭を含む69頭を、5月に札幌競馬場で開催された北海道トレーニングセールにて6頭を売却 ○ 実践的な技術指導、講習会、ホームページを通じ、生産育成研究及び技術開発によって得られた成果を普及・啓発 <p>ii) 生産育成基盤の強化</p> <p>【国内生産基盤の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産者賞の審査・交付認定を実施 ○ 生産育成技術の向上を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬経営高度化指導研修事業に協力 ○ 資質に優れた種牡馬及び繁殖牝馬群の導入や繁殖牝馬流通活性化を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する優良繁殖馬導入促進事業に協力 ○ 諸団体が実施する国内セリ市場における流通促進及び東南アジア諸国への内国産馬の流通促進に協力 ○ 関係部署及び各団体で構成される「海外流通促進連絡協議会」に参加し、情報提供等のサポートを行う等、日本産馬輸出体制づくりを支援 <p>【生産育成に関わる人材養成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産育成調教技術者の養成を目的として、(公財)軽種馬育成調教センターが実施する育成調教技術者養成事業、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬生産育成技術者養成推進事業に助成 ○ 生産育成牧場への若手就業者不足の対応策として、(公社)競走馬育成協会が実施する生産育成牧場への就業者参入促進事業に協力 |

| | |
|---------------------|--|
| <p>② 競走馬の保健衛生対策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬総合研究所を中心として、スポーツ科学・スポーツ障害・先端獣医療・伝染病対策・生産基盤強化などに関する研究を引き続き実施。また、その成果を普及・啓発するため、学会や講演会などで発表 ○ バイオテクノロジーなどの先端技術を応用した研究として、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門との共同研究により、「馬の病原細菌における薬剤耐性機構の解析（平成30～令和2年）」及び「ウマ腸管オルガノイドの確立およびウマ下痢症ウイルス分離の試み（平成31～令和3年）」を実施 ○ 軽種馬生産地における疾病などの諸問題を解決する調査研究として、「競走馬の生産・育成技術及び若馬の疾病に関する調査研究（平成29～令和3年）」を実施 ○ 外部研究機関への委託により、「低酸素トレーニングが骨格筋の乳酸代謝に及ぼす影響に関する研究（平成29～令和元年）」や「眼疾患治療法の改善を目的としたウマ再構築角膜を用いた試験系の確立（平成31～令和3年）」などの研究を実施 ○ 競馬サークルへの研究成果の普及及び学術交流を図るため、11月25日に「第61回競走馬に関する調査研究発表会」を開催 ○ 生産地への研究成果の普及、生産者の研究ニーズの把握を目的とし、7月11日に「第47回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」を開催 |
| <p>③ 競走馬の事故防止対策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬の事故（骨折等）を防止し、充実した競馬実施に資するため、調教施設及び馬場の保全管理を実施 ○ 競走馬の事故発生状況を随時調査・分析するとともに、事故防止に対する意識の向上を目的として、厩舎関係者を対象とする各種研修会を開催 ○ 事故防止に関する調査研究として、競走馬総合研究所を中心に「浅屈腱炎症例の予後に影響する因子の検討」、「競走中・調教中に発症する重篤な疾患における薬物使用実態及び遺伝学的背景の調査研究」及び「馬場柵等付帯施設の安全性向上に関する研究」などを実施 ○ 夏季競馬開催における競走馬の暑熱対策として、熱中症予防に関する厩舎関係者への啓発活動を行うとともに、必要な設備・制度の改善を支援 |
| <p>④ 防疫体制の整備</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「日本中央競馬会競走馬伝染病防あつ規程」に基づく入厩検疫、定期検査及び予防接種を実施すると |

| | | |
|-------------|--|--|
| | | <p>ともに、環境衛生対策、疫学調査、ワクチン備蓄等の防疫措置を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家畜伝染病予防法で定められた「飼養衛生管理基準(馬)」に基づいて、本会施設内の衛生管理を実施 ○ 所轄官庁の指導に基づき、国際交流競走に参加する外国馬、及び海外遠征する日本馬の輸出入検疫に付帯する業務を実施 ○ 国際交流競走へ円滑に出走できるよう家畜衛生条件の締結や遠征環境の整備に向けて、馬の移動状況や伝染病の疫学調査についての情報を所轄官庁と共有 ○ 生産育成地における疾病蔓延防止及び本会施設内への疾病侵入阻止を目的とし、(公社)中央畜産会が実施する「馬伝染性疾病防疫推進対策事業」を通じて、本会施設入厩前の育成馬や繁殖牝馬、乗用馬等を対象とした予防接種(馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風、馬鼻肺炎)を推進 ○ 馬伝染性子宮炎の国内清浄化の達成を受け、(公社)日本軽種馬協会が実施する「馬伝染性子宮炎自衛防疫普及事業」を通じ、清浄化後の疫学監視を推進 ○ 「生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」やトレーニング・センター周辺牧場との防疫協議会を開催し、防疫体制の強化を推進 ○ 国内の防疫体制の強化を目的とし、競走馬総合研究所において、馬ピロプラズマ病診断用 IFA プレートの作製及び抗原性の検証、ヒト用ロタウイルス簡易迅速診断キットのウマロタウイルス病診断への応用に関する研究、両トレーニング・センターの馬鼻肺炎血清疫学調査、血清学的試験を中心とした鼻疽検査法の検討、新しい馬インフルエンザワクチンの接種馬における抗体保有状況調査及び OIE リファレンス・ラボ認定取得に向けた取り組みを実施 ○ 国内外の伝染病情報や飼養管理に関する情報を軽種馬防疫協議会へ提供するとともに、「馬飼養衛生管理特別対策事業」における講習会等を通じて、馬防疫思想の普及を推進 |
| (9) 馬主活動の促進 | | <p>【新規馬主開拓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 馬主活動を各種媒体でPRするとともに富裕層向け競馬観戦会を実施 <p>【既存馬主の活動促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ GI 開催競馬場において出走記念昼食会を実施 ○ 50年以上馬主登録を継続している馬主に対し、永年馬主表彰を実施 |

| | |
|-----------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 所有馬を初めて本会競走に出走させた馬主に対し、記念品を贈呈 ○ 新規馬主競馬観戦会及びトレーニング・センター見学会を実施 ○ 馬主用ホームページの運用 |
| <p>(10) 厩舎運営の活性化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各調教師からの貸付馬房数の申請受付と成績査定を行ったうえ、3月1日付で栗東トレーニング・センターでは1,972馬房を、美浦トレーニング・センターでは1,952馬房をそれぞれ貸付け ○ 事業年度途中の調教師の勇退等に伴い、トレーニング・センターにおける定期貸付け及び臨時貸付けを適正に実施 ○ 調教助手・厩務員（調教厩務員を含む）の承認等に伴う、令和元年度末の状況 <ul style="list-style-type: none"> ◇調教助手 <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末 1,702名 新規に承認した者 49名 (栗東19名、美浦30名) 令和元年度末現在 1,696名 (栗東942名、美浦754名) ◇厩務員 <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末 667名 新規に採用された者 13名 (栗東0名、美浦13名) 令和元年度末現在 656名 (栗東237名、美浦419名) ○ 厩舎制度の改善に向けた(一社)日本調教師会の取組みを支援 |
| <p>(11) 厩舎関係者の養成等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 騎手課程においては第35期生7名が卒業 ○ 令和元年度末現在の在校生徒数は21名（内訳／36期4名・37期9名・38期8名） ○ 厩務員課程においては55名が卒業 ○ (一社)日本調教師会を実施主体とする特別振興事業（厩舎関係者海外研修事業）に対する適切な指導及び支援を実施 ○ トレーニング・センターにおける研修計画の実施及び、厩舎関係者との意見交換及び検証結果等を踏まえた次年度研修計画を策定 ○ 新規調教師免許取得者に対し、免許取得後に必要な知識を習得するための研修を実施 ○ 新規騎手免許取得者に対し、免許取得後に必要な知識を習得するための研修を実施 |
| <p>《参考》地方競馬との交流競走</p> | |

| | |
|----------------|---|
| ① 地方競馬指定交流競走 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方競馬において、ダート交流重賞競走として40競走(11主催者)が実施され、全ての競走に延べ195頭の中央競馬所属馬が出走し、33競走で優勝 ○ 地方競馬における条件交流競走は151競走(13主催者)が実施され、延べ838頭の中央競馬所属馬が出走 ○ 本賞金総額の50%(九州産馬限定競走は90%)を上限として交流競走協力金を交付 |
| ② 認定競走 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方競馬において、177競走(10主催者)の認定競走を実施。なお、全ての主催者において、上位に格付けされた競走を認定競走として実施(北海道においてのみ従来の新馬・未勝利クラスの認定競走も併せて実施) ○ 本賞金総額の90%を上限として認定競走協力金を交付 |
| ③ 中央競馬指定交流競走 | <ul style="list-style-type: none"> ○ ダート重賞15競走を中央競馬指定交流競走として実施し、そのうち3競走に地方競馬所属馬が延べ3頭出走 ○ 芝のG I競走とそのステップ競走を中央競馬指定交流競走として実施。ステップ競走には9競走に地方競馬所属馬が延べ10頭出走(G I競走には地方競馬所属馬の出走なし) |
| ④ 中央競馬特別指定交流競走 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 認定競走の優勝馬が出走できる中央競馬特別指定交流競走には、2歳では15競走に延べ32頭、3歳では22競走に延べ25頭の地方競馬所属馬が出走 |

2. 競馬の公正確保の徹底

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|------------------------|----|--|
| (1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 登録及び免許の実施状況(※国際交流競走、国際騎手招待競走及び地方競馬との指定交流競走は除く数) <ul style="list-style-type: none"> ◇馬主登録 <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末 2,473名 (うち個人2,092、法人331、組合50) 新規登録 165名 (うち個人150、法人8、組合7) 登録抹消 70名 (うち個人61、法人9、組合0) 令和元年度末現在 2,568名 |

(うち個人 2,181、法人 330、組合 57)

◇競走馬登録

平成30年度末 8,597 頭
新規登録 5,528 頭 (うち再登録 346 頭)
登録抹消 5,322 頭
令和元年度末現在 8,803 頭

◇服色登録

平成30年度末 1,935 件
新規登録 132 件
登録抹消 89 件
令和元年度末現在 1,978 件

◇調教師免許

平成30年度末 192 名
免許不更新の者 8 名
令和元年度免許者 190 名
〔前年度からの更新 184 名、新規 6 名〕
令和元年度末現在 190 名

◇騎手免許

平成30年度末 133 名
免許不更新の者 0 名
令和元年度免許者 141 名
〔3月1日付 更新 133 名、新規 8 名〕
※その後、取消者 3 名
令和元年度末現在 138 名

○ 外国人騎手の短期免許について、令和元事業年度は10名(延べ12名)に臨時試験による短期免許を交付。また、特別条件該当者として1名に臨時試験による1日限定の免許を交付

○ クラブ法人への対応として、金融商品取引法関連法令に基づく登録業者の指導を監督官庁との連携のもと実施

○ 制裁等の厳正な実施

◇公正確保の維持

「公正確保」は、競馬に対する社会的信用を維持するうえでの根幹となるものであることから、公正確保上の対応が必要な事案に関して調査等を実施するとともに、厩舎関係者に対し適宜指導を行う等主催者として最大限の努力を傾注

令和元事業年度に、不正事案は発生せず

◇騎手・調教師に対する制裁

競馬開催における騎手に対する制裁は、戒告・過怠金が765件(うち、地方競馬における戒告が5件)、騎乗停止が39件(うち、地方・海外競

| | |
|---------------------------------------|--|
| | <p>馬における騎乗停止が3件)。中央競馬における騎乗停止処分の内訳は、進路の取り方によるものが35件(うち、第1着から第3着までに入線した馬にかかるものが16件)、その他が1件</p> <p>競馬開催における調教師に対する制裁は、戒告・過怠金が45件(うち、地方競馬における戒告が3件)</p> <p>◇研修会等の実施</p> <p>競馬の公正、安全及び円滑な実施に資するため、制裁点数制による騎手の再教育(延べ19名に対して実施)、若手騎手研修を実施</p> <p>◇騎手ドーピング検査の実施</p> <p>騎手の健康保護及び競走の安全を図るため、「騎手の薬物使用等に関する検査実施要綱」に基づき、騎手に対するドーピング検査(尿検体を用いた理化学検査40件、呼気検体を用いたアルコール検査48件)を実施</p> |
| <p>(2) 薬物の不正使用事案等の未然防止及び自主警備体制の整備</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会競馬施行規約第58条に規定される理化学検査を適正に実施し、また、当該検査機関である(公財)競走馬理化学研究所が実施する競馬の公正確保に関連する事業に協力 ○ 競馬の公正な施行を確保するため、厩舎地区などの業務エリアにおける警備を万全な体制で実施 ○ 平成30年に発生した調教助手による偽計業務妨害事案の再発防止策として、関係各所と調整の上、トレーニング・センター及び滞在型競馬場の厩舎地区に防犯カメラを設置していくこととした方針に則り、設置に向けた手続きを開始 ○ お客様の安全確保及び場内外の秩序維持のため、自主警備を万全な体制で実施するとともに、関係機関と連携し、競馬の公正を阻害するおそれのある者の発見と排除を徹底 ○ 警備体制の策定にあたっては、「警備体制に関するガイドライン」に基づき、来場者の安全確保を前提としたうえで、効率的な配置で実施 ○ 禁止薬物に関する取組み <ul style="list-style-type: none"> ◇ 平成31年2月に発生した出走当該週の火曜日に規制薬物の投与を受けたにも関わらず出馬投票し、競走当日に同薬物の影響が残るおそれがあることから出走取消とした事案について、調査を行った上で処分を決定。再発防止策として、規制薬物検出期間の出馬投票に関する注意文を出馬投票室に掲示するとともに、調教師が管理馬の薬物施 |

| | |
|--------------------------------------|--|
| | <p>用状況を把握しやすくすることを目的として、禁止薬物・規制薬物が施用された際に獣医師より交付される「禁止薬物・規制薬物施用通知書」を保管する専用ファイルを全調教師に配布し、交付された施用通知書を適切に管理するよう指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 平成31年4月に発生した出走後に規制薬物が検出された事案を受け、調査を行った上で処分を決定 ◇ 令和元年6月に馬用サプリメントから禁止薬物が検出され、多数の出走予定馬を競走から除外したことを受け、(公財)競走馬理化学研究所における競走馬用飼料検査体制および本会施設内における飼料販売のあり方の抜本的な見直し（飼料の薬物検査等に係わる諸規程の整備、飼料販売業者への承認制度の導入等）を実施 ◇ 令和元年8月に発生した管理馬に持込薬を施用した事案を受け、持込薬に関する処分基準を新たに設定。規制薬物に関する処分基準についても、運用開始後5年が経過したが、未だに年数件の事案発生があるため、一部見直しを実施 ◇ 禁止薬物陽性事案が発生した際に迅速な対応をとるためには、捜査機関との密接な協力関係が必要となることから、警察関係者に対して禁止薬物に関する説明会を実施 |
| <p>(3) 勝馬投票に関わる違法行為等の防止対策</p> | |
| <p>① ノミ行為、違法インターネット賭事等の防止対策</p> | <p>○ ノミ行為・インターネット賭事等の違法行為防止対策として、これらの勝馬投票類似行為が違法であることについて、レーシングプログラムやJRAホームページ等を活用した啓発活動を実施</p> |
| <p>② 悪質な競馬情報提供会社による被害防止対策</p> | <p>○ 競馬予想に関する特別な情報を提供すると喧伝する一部の悪質な会社による被害を防止するため、情報収集を継続的に実施し、競馬場・ウインズのモニター等において注意喚起を図るビデオを放映したほか、レーシングプログラム等各種媒体にお客様向けの注意喚起文を掲載し、広報・告知活動を強化</p> |
| <p>③ 未成年者の勝馬投票券購入防止対策</p> | <p>○ 職員等による指導注意活動を実施するとともに、レーシングプログラム等を活用した広報・告知活動を実施</p> |
| <p>(4) 審判関係業務の改善</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ お客様の関心が高く説明が必要と思われる事象については、引き続き裁決レポートを積極的に作成し、ホームページでお客様へ情報を提供 ○ 降着・失格に関する判断基準をはじめとした裁決業務についてお客様の理解を深めてもらうため、引 |

| | |
|--|---|
| | <p>き続きホームページ・レーシングプログラム等の媒体を活用し周知。また、専門職職員のテレビ・ラジオ番組への出演を通じ、お客様の審判関係業務への理解を醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際協調に関しては、I F H A「競馬ルール（裁決事項）の調和に関する委員会」に出席し、諸外国の裁決担当者と意見交換を行い、日本が検討すべき課題について本会の裁決担当者間で協議。動物愛護及びルールの国際調和の観点から、競走ルール2点の変更（競走における拍車の使用禁止及び騎手の騎乗停止処分の始期の見直し）を行い、令和2年1月からの運用を決定。ワールドベストレースホースランキング会議に出席。各国のハンデキャッパーと適宜協議を重ね、2019年度の競走馬の世界ランキングを決定 ○ 地方競馬との協調に関しては、地方競馬全国協会と情報連絡会議を実施し、裁決業務などに関する課題について協議・検討を実施 |
|--|---|

3. 競馬への参加促進及び販売促進

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|-----------------------|-------------------|--|
| (1) プロモーションの展開 | | |
| | ① 広告プロモーションの展開 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の認知拡大やイメージ向上、興味喚起を図るため、年間プロモーションとして、「HOT HOLIDAYS！」を前年に引き続き展開。これまでのキャスト（松坂桃李・柳楽優弥・高畑充希・土屋太鳳）に新たに2名（中川大志・葵わかな）を加え、若い競馬未経験者による競馬場での驚きや発見をユーモラスに表現したTVCM（計15編）を制作・放映 ○ レースの迫力や競走馬の躍動感・美しさ等、競馬の奥深さやロマンを訴求するブランド広告「夢の第11レース」及び「a beautiful race」を継続展開したほか、日本ダービーのプロモーションの一環として、競馬ファンの誰もが思い描く過去の優勝馬同士による架空の対決を題材にした「夢のVS. 日本ダービー」を制作・放映 |
| | ② G I 競走等のプロモーション | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主にG I 競走を告知するため、TVCM・新聞広告等の各種メディアを活用した広告を実施。特に日本ダービー、ジャパンカップ及び有馬記念においては、広告の効果的な展開及び提携コンテンツ（黒ひげ危機一髪やルパン三世等）や馬型ロボット等を活 |

| | | |
|--|------------------------------|--|
| | | <p>用した街頭イベントを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「有馬記念フェスティバル」として、約500名のお客様を招待のうえ出走馬関係者が一堂に会する枠順決定の公開抽選会を開催し、テレビによる生中継を実施 ○ 「Uma bi」サイトにおいて、日本ダービーでは「ゴルゴ13」、宝塚記念・天皇賞(秋)・ジャパンカップでは「ガンダムシリーズ」、有馬記念では「ルパン三世」「Fate/Grand Order」との提携企画を実施する等WEBプロモーションを展開 |
| | <p>③ 海外競馬のプロモーション</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各主催者と契約を締結し、発売対象レース全てをグリーンチャンネルで放送するとともに、ドバイワールドカップ及び凱旋門賞については、フジテレビ系列全国ネットでの放送を実施 ○ 発売対象レースに関して、主催者等を通じて入手した出走馬データを速やかにマスコミへ提供することにより、お客様への正確な情報提供を実施 ○ お客様への情報提供、注目度の向上、参加意欲の向上を図るため、発売レースの出走馬の紹介コンテンツを制作。また、実施される競馬場の紹介コンテンツを制作し、競馬場・ウインズで放映するとともにホームページに掲載 ○ 海外競馬に対するより一層の興味喚起や理解醸成を図るため、海外競馬の魅力に触れる機会を拡大する番組を提供 ○ お客様の注目度の高い「ドバイワールドカップ競走」「凱旋門賞」「香港国際競走」「メルボルンカップ」に合わせて、新聞・WEB広告を展開し、海外競馬発売の認知向上や参加促進に向けたプロモーションを展開。また、凱旋門賞当日には、東京競馬場においてUMACA会員を対象とした観戦イベントを実施し、新宿アルタビジョンにおいてもレース実況を放映 |
| | <p>④ その他WEBサイトの展開</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の認知度拡大のため、WEB・SNSを活用した競馬未経験層へのアプローチとして年間を通じて展開 ○ 競馬未経験層をターゲットとした「Uma bi」サイトを前年に引き続き運用するとともに、人気タレントによる競馬情報発信等SNSを活用したプロモーションを通年で展開 ○ 競馬未経験層との接点創出を図るため、若年層に人気の高いコンテンツ(「マイメロディ」「テラスハウス」「新日本プロレス」など)と提携したプロモ- |

| | | |
|--------------------------|---|-----------|
| | | ションサイトを公開 |
| (2) 広報活動の展開 | | |
| ① 競馬中継の安定的な提供 | ○ テレビ（地上波・BSデジタル）・ラジオによる競馬中継は、お客様にレース映像・情報を提供する重要な役割を果たしていることから、競馬中継を安定的に提供することや番組内容の充実について、各局との協議・連携を継続的に実施 ○ 日曜日のメインレース時間帯におけるBSフジの競馬中継は、年20回実施 | |
| ② パブリシティ活動の充実 | ○ 競馬に関する話題性を喚起するとともに、競馬に関連した紙面の充実を図るため、マスメディアへのきめ細かなパブリシティ活動を実施したことで、一般紙においても、「藤田菜七子騎手JRAGIレース初騎乗」など、中央競馬関連記事が多く掲載された他、ニュースやワイドショーなどの放送メディアでも同様の話題が多く取り上げられ、広く世間一般に対して「競馬」をアピール ○ 「優駿」などの各種出版物により、的確かつ時宜を得た内容の情報提供をマスコミ及びお客様向けに実施 ○ JRA賞授賞式などの開催を通じて、競馬への理解促進やイメージアップに貢献 ○ JRAの認知度向上や競馬に関する話題喚起を図るため、競馬初心者からコアファンまで各層を対象としたミニ番組を、年間通じて提供するとともに、春秋のGIシーズンの盛り上げを図るミニ番組や、将来の競馬産業の担い手確保を狙いとした特別番組を提供 ○ 競馬に関する話題喚起を図るため、藤田菜七子騎手の4年間に密着した特別番組や2019年の競馬を振り返る特別番組を提供。また、GI競走の参加促進を図るため、バラエティ番組・スポーツ番組・情報番組等でパブリシティを実施 ○ 競走馬総合研究所のホームページ、刊行物、講演会等を通じて、馬及び競馬の科学情報を発信 | |
| (3) 競馬場・ウインズ等の活性化 | | |
| ① 多様なお客様層に応じたアプローチ | ○ 既存のお客様により競馬を楽しみいただくとともに競馬に馴染みのない方々にもご参加いただけるよう、多彩なお客様サービスイベント等、お客様のニーズを踏まえた以下の各種施策を実施 ◇ 全競馬場の競馬開催日において年間プロモーション「HOT HOLIDAYS！」と連動したイベントを展開。装飾等について統一感を持たせ | |

| | | |
|--|--|---|
| | | <p>ることによりスケールメリットを生かしたものと する他、G I 競走日を中心とした特定日にはプロ モーション出演キャストの来場とイベントを連動 させた「スペホリ！」を全競馬場で実施（計11 回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ G I 開催週を中心に、競馬キャスターやタレン ト等を起用し、競馬場及びウインズにおいて各種 トークショーイベントやファミリー向けキャラク ターショー、馬とのふれあいイベント等を実施 ◇ サマーシリーズ及びワールドオールスタージョ ッキーズの振興を目的に、優勝騎手、競走馬を当 てるクイズ懸賞を軸としたキャンペーンを実施。 懸賞は昨年と同様に勝馬投票券の提示を必要とし ないオープンキャンペーン形式で実施し、幅広い 層の興味喚起を実現（延べ86,056通（対前年 比128.0%）の応募を獲得） ◇ 女性のお客様の獲得と定着化 全競馬場において「UMA JOスポット」を運 用するほか、本会施設外においても、女性向け外 部イベント（東京ガールズコレクション等）への 参加や街頭イベント（表参道）の実施、人気ファッ ション誌との提携等を展開 ◇ シニアのお客様へのサービスとして、9月14・ 16日をシニアサンクスデーとして競馬場・ウイ ンズにおいてシニア向けグッズ（めがね型ルーペ 100,000本、首掛けライト10,000本） を配布 ◇ 「お年賀タオル」（1月5日、22.3万枚）、「2 020年JRAオリジナルカレンダー」（12月9 日、60.8万部）を配布 ◇ JRAの公式プログラムとして、「レーシングプ ログラム」を年間通じて安定的に発行し、お客様 へ有益と思われる各種情報を提供。特に注目度 の高いレースである日本ダービーや有馬記念当日 には特別カラー版を配布。また、海外競馬の発売、ヤ ングジョッキーズシリーズ開催等のトピックに合 わせて、カラーの特別記事を掲載するとともに、 天皇陛下御即位慶祝競走として行われた天皇賞 （秋）当日にはメモリアルブックを配布 ◇ 宝塚記念及び有馬記念において「ファン投票」 を実施。有効投票件数はそれぞれ119,624 件（前年比101.8%）、176,973件（同 103.8%） |
|--|--|---|

| | |
|---------------------|--|
| <p>② 来場のきっかけ作り</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 有料駐車場がある9競馬場において、来場車両の抑制及びグループによる来場促進のため、駐車場あいのりキャンペーンを実施 ○ 来賓室等を活用し、新規のお客様ならびに富裕層を対象とした競馬教室や競馬観戦会を実施（実施回数6回、参加人数121名） ○ 全競馬場・全競馬開催日において「競馬場来場ポイントキャンペーン」を実施。また、来場促進効果を高めるため、TVCMと連動した賞品も設定 ○ 全国の競馬場において、競走名にちなんだ各地域の物産展や競馬場所在地域の名産品店の出店、食堂・売店利用促進クーポンの配布などさまざまな「食のイベント」を開催 ○ 本会施設外を中心にターフィーグリーティングイベントを合計79回実施し、参加者にターフィーの名刺やサンバイザー等のオリジナルグッズを配布。また、WEBにおいても競馬初心者向けサイト「TURFY LAND」を通年で運用 ○ 競馬場の入場料を無料とする「フリーパスの日」を10競馬場で計24日間設定（内10日は女性対象のフリーパスの日、2日はファミリー対象のフリーパスの日） ○ ウインズにおいて、地元企業とのコラボレーション（ウインズ錦糸町、ウインズ立川、ウインズ難波等）、地元警察署とのコラボレーション（エクセル浜松）などを通じて、ウインズの認知度向上を推進。また、オリジナルご当地ターフィーのオリジナルグッズを作成し、イベント・広報に活用することで、ウインズの認知度向上を推進 |
| <p>③ ウインズ・デーの実施</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 8月17日（土）・18日（日）を「ウインズ・デー」として、全国のウインズ・エクセル・パークウインズにおいて、日頃からご愛顧いただいているお客様への感謝イベントを同日に統一感を持って実施。具体的なイベント内容は以下のとおり ◇ JRAオリジナル扇子（17日：12万個）、JRAオリジナルマルチクロス（18日：18万個）の先着プレゼント ◇ エクセル席の半額、割引キャンペーン（パークウインズの指定席は除く） ◇ それぞれの事業所における抽選会やキャラクターショー等のお楽しみイベント ◇ 食堂・売店の一部商品の割引キャンペーン |
| <p>③ 阪神競馬場開設7</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 阪神ジュベナイルフィリーズ（GI）を「阪神競馬 |

| | | |
|---|------------------------|---|
| | 0周年記念イベントの実施 | 場開設70周年記念競走」に設定するとともに、競馬場の歴史を紹介するCM制作及び展示等の記念イベントを実施 |
| (4) キャッシュレス投票 (UMACA投票) の円滑な導入及び運用 | | |
| | ① キャッシュレス投票機及び情報照会機の導入 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 専用ICカード「JRA-UMACA」を用いることによって「現金レス」「馬券レス」でこれまで以上に便利に勝馬投票券をご購入いただけるキャッシュレス投票システム「UMACA投票」を、本年は6競馬場、10ウインズの計16事業所に新たに導入し、23事業所で運用 ○ これまで現金投票の発売窓口ではご購入いただけなかったWIN5及び海外競馬の発売も実施 ○ UMACA投票の導入と併せて、新たに情報照会端末機「UMAポート」(ウマポート)を設置し、オッズプリントサービスのほか、JRA-UMACAを活用したクーポン発券等のサービスを実施 |
| | ② 会員登録体制等の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たなサービスであるUMACA投票の積極的な展開を図るため、導入事業所において、登録会員・利用案内・広報を一体化した取組みを実施 <p>【JRA-UMACA登録会員数】 令和元年度末132,775名 (平成30年度末比87,588名増)</p> |
| (5) 払戻金施策 | | |
| | ① 払戻金上乘せ施策 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「JRAプレミアム」(1号給付金)については、馬連を対象とした「金杯馬連(1月5日)」、「春の3歳重賞馬連(1月6日～5月25日)」、「ダービーデー馬連(5月26日の全レース)」、「有馬記念ウィーク馬連(12月21日・22日の全レース)」、単勝を対象とした「2歳単勝(6月1日～12月15日・12月28日)」として、それぞれ対象投票法の売上の5%相当額の上乗せを計722競走で実施 (上乘せ総額 3,161,942,790円) ○ 通常の払戻金が100円元返しとなる場合に10円を上乗せして110円で払戻する「JRAプラス10」(2号給付金)を、海外競馬を含む「全ての競走の全ての投票法」に対して実施 (661件 上乘せ総額 3,309,726,020円) |
| | ② 払戻率の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の払戻率(単勝80%、複勝80%、枠連77.5%、馬連77.5%、ワイド77.5%、馬単75%、3連複75%、3連単72.5%、WIN5 70%)設定以降のお客様の購買動向等を分析し、現在の率の継続を決定 ○ 弾力的な払戻率の設定の更なる活用施策として、9月16日(第4回中山競馬第5日及び第4回阪神 |

| | | |
|-------------------------------|-----------------------|--|
| | | 競馬第5日)及び12月28日(第5回中山競馬第9日及び第5回阪神競馬第9日)において、全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施 |
| (6) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び離脱防止 | | <p>JRAのみならず地方競馬、海外競馬のインターネット投票を安定的に実施し、また、「インターネット」にて購入できること等を広報、宣伝することで即PATを中心にインターネット投票会員の加入を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 即PAT会員及びJRAダイレクト会員の新規登録を随時実施 ・即PAT新規登録会員数 535,336名 ・JRAダイレクト新規登録会員数 45,598名 ◇ A-PATの新規会員募集を2ヶ月毎に年間6回実施 ・A-PAT会員新規登録者数 2,908名 <p>また、電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、PATサービスセンター、JRAホームページを中心とした案内を年間通じて安定的に実施</p> |
| | ① 電話・インターネット投票会員の加入促進 | ○ 即PATの「新規加入キャンペーン(9月27日～11月24日)」を実施。期間中の即PAT新規登録は96,106名 |
| | ② サポート体制の充実 | <p>○ 電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、PATサービスセンターにおける電話対応を中心に、JRAホームページにおけるFAQの充実を図ることで継続、安定的に案内を実施。また、対面式での問合せ対応充実のため、「電話・インターネット投票サポートデスク」を通年でウインズ梅田、ウインズ後樂園に、臨時サポートデスクをライトウインズ阿見、ウインズ広島、ウインズ小郡、ウインズ佐賀に設置し、更には、地方競馬施設である高知競馬場に設置し、新規会員登録受付を主に既存会員対応と併せて実施</p> <p>○ 増加傾向にある競馬場、ウインズ等でのインターネット投票に関する質問、問合せ等に職員、スタッフ等がスムーズに対応できるよう、必要かつタイムリーな情報を開催単位で事業所へ適宜提供</p> <p>○ 従来から実施している「新ブラウザ対応」「OSバージョンアップ対応」等についても、日々、変更情報の収集に努め、可能な限りタイムリーに対応することを心掛け、既存投票環境の安定化を推進</p> |
| | ③ 電話・インターネット投票会員向けサ | ○ 電話・インターネット投票会員の利用促進、フォローアップを図るため、年間を通じて各種キャンペ |

| | | |
|------------------------------|--|--|
| <p>サービスの充実</p> | <p>ーンを実施</p> <p>◇ 各種キャンペーン</p> <p>発売金及び参加率向上策として、電話・インターネット投票会員向けキャンペーンを以下のとおり実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春のG I 観戦キャンペーン@東京競馬場（2～3月） ・ 戦いは次のステージへ！Club JRA-Netキャンペーン（3～4月） ・ 目撃せよ、新時代のドラマを。日本ダービーキャンペーン（5月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2019 夏の一番星を探せ！（6～7月） ・ 夢の風に、乗れ。夏の2歳単勝キャンペーン！（6～9月） ・ 令和初の最強騎手は、誰だ？ワールドオールスタージョッキーズキャンペーン（8月） ・ 豪華なJRAオリジナルグッズが当たる！Club JRA-Net キャンペーン（8～9月） ・ インターネット投票サービス「即PAT新規加入キャンペーン」（9～11月） ・ 世界にまだ見ぬ衝撃を！凱旋門賞キャンペーン（10月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2019 秋競馬展望KEIBAコンシェルジュ（10～12月） ・ いざ、有馬へ。令和元年 有馬記念キャンペーン（12月） <p>◇ 会員向けの情報発信</p> <p>年間通じて電話・インターネット投票会員専用サイト「Club JRA-Net」会員向けのメール（Club JRA-Netメール）を送信（年間送信回数468回、会員数 約192名）</p> <p>また、特定の条件を満たした電話・インターネット投票会員（約107万名）に対し、「JRAからのお知らせ」「令和2年レーシングスケジュール」「地方競馬からのお知らせ」等を12月に送付し、年末年始、令和2年のJRAへの参加促進策を実施</p> | <p>ーンを実施</p> <p>◇ 各種キャンペーン</p> <p>発売金及び参加率向上策として、電話・インターネット投票会員向けキャンペーンを以下のとおり実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春のG I 観戦キャンペーン@東京競馬場（2～3月） ・ 戦いは次のステージへ！Club JRA-Netキャンペーン（3～4月） ・ 目撃せよ、新時代のドラマを。日本ダービーキャンペーン（5月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2019 夏の一番星を探せ！（6～7月） ・ 夢の風に、乗れ。夏の2歳単勝キャンペーン！（6～9月） ・ 令和初の最強騎手は、誰だ？ワールドオールスタージョッキーズキャンペーン（8月） ・ 豪華なJRAオリジナルグッズが当たる！Club JRA-Net キャンペーン（8～9月） ・ インターネット投票サービス「即PAT新規加入キャンペーン」（9～11月） ・ 世界にまだ見ぬ衝撃を！凱旋門賞キャンペーン（10月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2019 秋競馬展望KEIBAコンシェルジュ（10～12月） ・ いざ、有馬へ。令和元年 有馬記念キャンペーン（12月） <p>◇ 会員向けの情報発信</p> <p>年間通じて電話・インターネット投票会員専用サイト「Club JRA-Net」会員向けのメール（Club JRA-Netメール）を送信（年間送信回数468回、会員数 約192名）</p> <p>また、特定の条件を満たした電話・インターネット投票会員（約107万名）に対し、「JRAからのお知らせ」「令和2年レーシングスケジュール」「地方競馬からのお知らせ」等を12月に送付し、年末年始、令和2年のJRAへの参加促進策を実施</p> |
| <p>④ 電話・インターネット投票の利便性の向上</p> | <p>○ 高齢者のお客様を中心に利用が拡大しつつある「ガラホ（ガラケー型スマートフォン）」からでも従来のガラケー同様の操作性で投票が可能となるガラ</p> | <p>○ 高齢者のお客様を中心に利用が拡大しつつある「ガラホ（ガラケー型スマートフォン）」からでも従来のガラケー同様の操作性で投票が可能となるガラ</p> |

| | | |
|------------------|------------------|---|
| | | <p>ホ専用投票サイトを8月にオープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ P A TサービスセンターにおいてA I 技術を利用した会員対応の調査研究を3月から10月に実施。また、高齢者等のお客様にとってより勝馬投票券を購入しやすいツール等の導入に向け、年間を通じてA I、I V Rの技術動向、他社導入事例等の調査、情報収集を実施 |
| (7) 販売ネットワークの拡充策 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 9月28日からJ-P L A C E鳥栖(佐賀県競馬組合)、J-P L A C E札幌駅前(北海道)での発売を開始し、地方競馬施設を活用した委託場外は平成30年度末比2か所増となる55か所に拡大 ○ 本会初のキャッシュレス専用場外として茨城県猿島郡境町に有料先着制の場外として「エクセル茨城境」(境町場外発売所)の設置申請を行い、7月29日に農水大臣承認を受ける。令和2年5月オープン予定 |
| (8) お客様への情報提供の充実 | | |
| | ① レース映像の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○ より分かりやすく迫力ある映像を提供することにより、お客様サービスを維持向上するため、G I競走当日を中心とした特定の日において、スーパースローカメラ、ヴァーチャルカメラ、車載カメラ等の特殊カメラを増設 ○ お客様の観戦環境の整備と高繊細で迫力ある映像の提供のため、大サイズの4K テレビモニターを効果的に配置 |
| | ② J R Aホームページの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○ J R Aホームページには、1年間で約97.7億ページビュー(延べアクセス数。以下「P V」)のアクセス。その内訳はパソコン版が約51.5億P V、スマートフォン版(以下「スマホ版」)が約43.4億P V、携帯版が約2.8億P V。1日あたりの最大アクセス数は有馬記念当日の約9,241万P V(パソコン版:約4,719万P V、スマホ版:約4,363万P V、携帯版:約159万P V) ○ G I競走の特設サイト(宝塚記念とジャパンカップ)を公開。宝塚記念の特設サイトでは、競馬ファンだけでなく未経験層にも興味を持って頂けるようS N Sを活用したサイトを制作。また、ジャパンカップでは、当該競走の歴史を紹介するとともに武豊騎手のインタビュー映像を公開。また、9月に設定されたJ R Aアニバーサリーデーに合わせ、J R A65年間の歴史やトピックを盛り込んだ特設サイトを公開 ○ 発売を行った海外競馬各レースについて、レース |

| | | |
|-------------------|--|--|
| | | <p>の概要、前哨戦レース映像、出走馬情報及び現地情報など、お客様の予想に役立つコンテンツを掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PC版JRAホームページのトップページリニューアルを実施 ○ システム改修に伴う（レースのクラス分け呼称・女性騎手減量記号）対応を実施 ○ PC版JRAホームページリニューアルに伴い、コンサルティングによるお客様のサイト内遷移データからコンテンツの整理、配置の変更をトップページリニューアルと同時に実施 ○ ウェブアクセシビリティ対応の継続実施 ○ 競馬の話題喚起及び拡散を目的に、JRA公式Facebookページで競馬やイベント等に関する話題の投稿 (令和元年末のフォロワー数:約19万) ○ YouTubeのJRAチャンネルにおいて、レース映像やテレビCM等の様々なジャンルの動画を掲載(令和元年の動画再生回数 約1,822万回) ○ 女性・若年層に親和性が高いインスタグラム投稿を活用し、競馬未経験者層の方に馬や競馬へのポジティブイメージを持っていただけるようアプローチを実施 (令和元年末のフォロワー数 約4.6万人) |
| <p>(9) その他の施策</p> | | <p>【スマッピー投票（QRコードを用いた投票）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ QRコードを用いて「マークカードレス」での便利でスマートな勝馬投票券の購入を可能とする「スマッピー投票」を、本年は、新たに18事業所で導入し、合計27事業所で運用 <p>【新型現金投票端末機の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スマッピー投票や「タッチパネル投票」に対応する新たな自動発売機「8次現金端末機」を、本年は、4事業所に新たに導入し、合計7事業所で運用 <p>【新たなマークカードの試行導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ GI競走を手軽に購入できる新たなマークカード「GIカード」を、未経験層やシニア層をターゲットに従来のマークカードよりも視認性を高めたデザインにより作成し、12月14日から7事業所で試行導入 <p>【ブース販売の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コンピュータが馬番号・組番号を選択する「クイックピック投票」を活用し、おみくじ感覚でお客様に馬券を購入していただく「ブース販売」を計17の事業所で延べ109日実施し、新規・ライトファ |

| | |
|--|---|
| | <p>ン層を中心とするお客様に勝馬投票の体験を提供</p> <p>【JRAパーティーキャンペーンの実施】</p> <p>○ 結婚式などに参加される勝馬投票券の購入機会がない方に気軽に競馬を体験していただく取組みとして「JRAウエディング」を春季と秋季に実施 (実施件数101件)</p> <p>【JRAアニバーサリーの実施】</p> <p>○ JRAの創立記念日である9月16日に、日頃から中央競馬をご愛顧いただいているお客様へ感謝を伝える日として、「JRAアニバーサリー」と題し、JRAスーパープレミアムをはじめとした各種施策を実施</p> |
|--|---|

4. ホスピタリティの向上

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|--------------------|--|--|
| (1) 接客体制の充実 | | |
| | ① 接客対応の改善 | ○ 接客スタッフの意識向上を図るための研修プログラムを策定し、全競馬場・ウインズにおいて継続的に展開。また、お客様のニーズに即応したきめ細やかな案内を行えるように、フロアに案内係を配置する等の案内体制の整備を実施 |
| | ② インフォメーション機能の充実及びビギナーズセミナー等の実施 | ○ 開催競馬場を中心に、競馬ビギナーの方やより競馬を深く知りたい方を対象としたビギナーズセミナーを実施(延実施日数305日、参加人員28,135名) ○ 開催競馬場において、初心者の方に対して馬券の種類やマークカードの記入方法等を案内するビギナーズカウンターを通年で設置(延実施日数318日、参加人員36,330名) |
| | ③ 外国人来場者への対応 | ○ 訪日および在日外国人に日本の競馬を認知してもらうことを目的に、訪日旅行情報サイトやSNS上に中央競馬の体験動画や記事を紹介するとともに、秋の東京競馬開催期間中、主に英語圏の在日・訪日外国人をターゲットとした来場キャンペーンを実施。また、日本ダービー週およびジャパンカップ週にジャパントイムズ紙において競馬特集記事を掲載し、訪日・在日外国人に対し広く日本競馬の魅力を訴求 ○ 外国人来場者向けサービスとして、GI当日の競馬場インフォメーションに英語案内通訳を配置するとともに、全事業所のインフォメーションには英語 |

| | | |
|--------------|--|--|
| | | <p>版レーシングプログラムやHow to Bet等の案内リーフレットを設置。また、既存の英語版基本マークカード(緑色)に加え、新規に英語版フォーメーション・ボックスマークカード(赤色)を製作し、外国人来場者の見込まれる一部来賓エリアに設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本競馬の認知度を高めることを目的に、G I競走を中心としたレース映像を海外に配信するとともに、出馬表、過去成績等のデータを提供。また、外国語ホームページ(英・仏・中・韓)には、G I競走を中心とした出走馬情報やデータ等の日本の競馬に関する情報を掲載 ○ フランス(5月)及びイギリス(7月)の競馬場において、G 1競走当日に現地競馬主催者、在外公館及び日本企業・団体の協力を得て、日本食や日本文化の紹介と併せた日本競馬のプロモーション「Saddle up for Japan」を実施 |
| (2) 観戦環境等の向上 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 快適な観戦環境の整備に向けて、競馬場及びウインズにおける施設内の環境美化を推進するため、クリーンキャンペーンを実施 ○ 競馬場において、混雑が著しい大レース当日の車載型トイレ等の借り上げによる滞留環境の改善を推進 ○ お客様エリアにおける空調・照明の運用について基準を設けて滞留環境の改善を実施 ○ 令和2年4月から全面施行される改正健康増進法に対応するため、屋内における喫煙施設の点検及び改修、屋外における喫煙場所の移設・閉鎖等を実施。また、お客様向けの分煙告知をターフビジョン・ITVにて放映するなど、広報・告知活動を実施 ○ ウインズにおいて、より多くのお客様の着席を推進するため、一部の多連の椅子から2連椅子への更新を順次実施 ○ 各ウインズのエクセルシートの利用を促進するため、特別料金の設定やイベント催事での景品提供を積極的に展開 |

5. 馬事振興

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|------------------|----|---|
| (1) J R A馬事公苑の整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技会場となるJ R A馬事公苑の整備工事が竣工 |

| | |
|-------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ テストイベント開催のため、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会にJRA馬事公苑を貸与(8月) |
| (2) 乗馬の普及 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所において、一般市民やスポーツ少年団を対象とする乗馬指導、初心者を対象とする乗馬教室を開催 ○ 馬と直接触れ合う機会を拡充するため、全国の事業所において、「馬に親しむ日」をはじめとする馬事イベントを開催 ○ 各競馬場において、「体験乗馬・馬車」「誘導馬によるお出迎え・お見送り」「ポニーとのふれあい」等を実施 ○ 乗馬の魅力を紹介するため、4月からフジテレビにおいてミニ番組「乗馬Labo」を放送 ○ 乗馬人口の拡大を図るため、(公社)全国乗馬倶楽部振興協会、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会が実施する乗馬普及事業に対して助成 |
| (3) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 引退競走馬に関する諸課題への取組みとして、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」(平成29年12月発足)を4回開催 ○ JRA馬事公苑(宇都宮)等で引退競走馬を乗用馬等へ転用するための調教(リトレーニング)方法の研究を実施 ○ 障害者乗馬やホースセラピーを実施する各団体の活動を支援 |
| (4) 馬術の振興 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 本会主催大会として、元競走馬・内国産乗用馬限定の「ジャパンプリーディングホースショー」を開催 ○ JRA馬事公苑(世田谷)が使用できないことに伴い、「関東高等学校自馬競技大会」や「日本乗馬少年団連盟馬術選手権大会」等多くの競技会に東京競馬場を貸与するとともに、大会主催者や大学等馬術部の費用負担増に対する補助を実施 ○ 本会事業所周辺の高校や大学の馬術部及び乗馬クラブに対して、技術指導を実施 ○ 馬を取扱う担当職員の技術向上を目的として、JRA馬事公苑の馬術系総合職員による乗馬技術や競走馬の再調教技術に関する各種講習会を実施 ○ 競馬関係者の馬への理解や取扱技術の向上を図るため、馬術系総合職員による講習会を両トレーニング・センターで実施 ○ 日本の馬術の振興を図るため、(公社)日本馬術連盟が実施する馬術振興事業に対して助成 |

| | |
|------------------------|--|
| <p>(5) 馬事文化の発展への寄与</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 馬の博物館では、企画展として「名馬と武将」、テーマ展として「競馬レトロポスター—地方競馬・西日本編」「馬の彫刻家・三井高義石膏原型展」等を開催。また、年2回の特別イベント「馬とあそぼうこどもの日」「馬とのつどい2019」やふれあいイベントを継続的に実施 ○ 競馬博物館では、春季特別展として「華麗なる淑女の饗宴 オークス展」、秋季特別展として「ファンが選ぶ思い出の顕彰馬」のほか、企画展「府中とラグビーと競馬」、天皇陛下御即位慶祝展示「皇室と競馬」、特別展「ありがとう！ディーピンパクト」を開催 ○ 「Gate J.」（新橋・梅田）では、「GIレース展望」「草野仁Gate J.プラス（グリーンチャンネル公開収録）」などを実施 ○ JRA賞馬事文化賞の選考にあたっては、書籍・映像・展覧会をはじめ幅広い分野から馬事文化に関わる作品等、約340点を対象に候補作品を絞り、2度の選考委員会で審議を重ねた結果、『ザ・ロイヤルファミリー』（著者：早見和真氏）を馬事文化賞に選出 ○ 日本在来馬8種の保存・活用を目的として、(公社)日本馬事協会が行う「保存活用推進事業」及び(公社)全国乗馬倶楽部振興協会が行う「在来馬乗用化推進事業」に対して助成 |
|------------------------|--|

6. 施設及びコンピュータ・システムの整備

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|--------------------|------------------|--|
| (1) お客様関連施設の改善及び整備 | | |
| | ① 中山競馬場スタンド等整備工事 | ○ スタンドを継続的に使用するための設備のリフレッシュ及びお客様サービスの向上に資するため、第1期工事を平成29年12月に着工、平成31年2月に竣工。第2期工事は平成30年11月に着工、令和元年8月には馬場内投票所内の「うまキッズルーム」「UP-Seat」が竣工し供用を開始、その他については令和3年11月に竣工予定 |
| | ② ウインズ札幌A館改築工事 | ○ ウインズ札幌を1館1棟に集約し、事業運営の効率化を図るとともにお客様の満足度向上と新規のお客様の獲得を目指して実施。令和3年春に竣工予定。工事に伴い、平成30年6月末以降はB館とアーバン館での運用を継続 |

| | | |
|---------------------------|--------------|---|
| | <p>③ その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ お客様の利便性の向上のため、競馬場・ウインズ等の館内諸施設の改善（エスカレーター、内装改修等）のための工事を実施 ○ 快適な空調環境を提供するため、老朽化した阪神競馬場のスタンド空調用冷温水発生機を更新 ○ エクセル伊勢佐木エクセル改修工事及びウインズ新白河2F利活用に伴う改修工事を実施。いずれも営業しながらの施工であったが適切な施工管理を行い、工期どおりに竣工 |
| <p>(2) 競走関連施設の改善及び整備</p> | | <p>【美浦トレーニング・センター厩舎改築工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 美浦トレーニング・センターは昭和53年に開場し、他の施設と同様、厩舎についても老朽化が進んでいるため、第1期工事を平成27年11月に着工し平成29年4月に竣工、第2期工事を平成30年12月に着工、令和2年4月に竣工予定 <p>【札幌競馬場一部厩舎改築工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬の繋養に万全を期すことで円滑な競馬開催に資するため、老朽化した厩舎を改築することとし、平成30年8月に着工、冬季における施工管理に注意を払い、工期どおり令和元年6月に竣工 <p>【美浦トレーニング・センター南Bコース及びDコース馬場改造工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 質の高い調教施設を提供するため、南Bコース及びDコースの馬場改造工事を平成31年1月に着工。南Dコースの工事は令和元年8月末に終了し9月より供用開始、南Bコースは令和2年1月に竣工予定 <p>【栗東トレーニング・センター輸出検疫厩舎改築工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 競走馬の海外遠征を円滑にするため、厩舎を改築することとし、令和元年7月に着工、令和2年9月に竣工予定 |
| <p>(3) システムの更新及び全体最適化</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各システムの信頼性・安定性を確保するため、以下のシステムについて更新等を実施 ◇ 平成31・令和元年に更新等を行い運用開始した主なシステム <ul style="list-style-type: none"> ・ J R Aホームページシステム ・ 屋外表示システム〔制御装置更新：東京・中山・京都RC〕 ・ J R Aカード景品交換運用システム ・ 緊急一斉指令システム ・ 情報照会システム（UMAポート） ・ 加入者管理システム ・ プッシュホン投票システム |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 投票照会システム ◇ 平成31・令和元年に更新等に着手した主なシステム <ul style="list-style-type: none"> ・ J R Aホームページシステム ・ 欧字提供システム ・ 9次現金投票システム ・ 即P A Tシステム ○ システムの効率化、コストの削減を図るため、以下のとおり全体最適化を推進 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 統合 I T 基盤機器の更新 ◇ 統合 I T 基盤への移行によるシステム統合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 番組企画システム (J A R I S - R) ◇ 端末仮想化技術 (シンクライアント端末) の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ 役職員用端末 ◇ 全体最適化を推進するその他のシステム <ul style="list-style-type: none"> ・ 即P A Tシステムの統合、2拠点化 |
|--|--|

7. 社会貢献活動

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|------------------------------------|----|--|
| (1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への協力 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催に向けて、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会等に対し以下の支援・協力を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 馬術競技会場となる馬事公苑の仮設施設・オーバーレイ工事に対する支援の実施 ◇ 本会の獣医、馬術、施設等の専門職員をテストイベントに派遣協力し、本大会に向けた協力体制を構築 ◇ 東京 2020 大会、テストイベント及び仮設施設・オーバーレイ工事期間を通じた本会不動産等の無償貸付 ○ 近代五種の馬術競技運営に協力するため、(公社)日本近代五種協会がテストイベントとして開催するワールドカップファイナルへの人馬の派遣等協力を実施 ○ 馬術の競技力強化のため、(公社)日本馬術連盟が実施する馬術日本チームの競技力強化事業に対する支援を実施 ○ 会場となる馬事公苑および海の森公園の防疫対応について、オリンピック組織委員会、農林水産省動 |

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>物衛生課および動物検疫所と協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防疫体制の構築ならびに運用にあたって人員の派遣等協力を実施 |
| (2) 地域社会との連携・協調 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係法令に則り、事業所ごとに各防災計画・マニュアルの整備及び職員他関係者への周知を徹底し、関係者の防災意識の向上を促進 ○ 大規模災害発生時の対策として、競馬場においては有事に備えて帰宅困難となった来場者及び周辺住民の避難を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理。また、都市部ウインズにおいても、来場者が帰宅困難となった場合を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理 ○ 「くらやみ祭り（5月3日大国魂神社）」等、地域の祭りや本部・事業所周辺の団体が主催する多くの催しに、人馬を派遣するなどの協力を実施 ○ 事業所周辺の幼稚園や保育園において、ポニーとのふれあい活動を展開するなど、「馬」を活用した地域密着型の協力を実施 |
| (3) 事業所周辺の環境保全、整備に関する取組み | <ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催日の交通対策として、周辺環境に配慮し来場車両を抑制するため、お客様に公共交通機関の利用の呼びかけを実施。 ○ 周辺道路の混雑及び渋滞の要因ともなる違法駐車を排除するため、警備ポストを配置するなどの対策を実施 ○ 競馬場・ウインズ等が所在する合計38の地方自治体に対して、道路・交通安全施設整備事業、教育・社会福祉施設整備事業、公園整備事業等の合計365事業に、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施 |
| (4) 環境への取組み | |
| ① リサイクルに関する取組み | <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成20事業年度より排出物対策の柱として取り組んでいる「RAP90」（リサイクル・アクション・プログラム・90：排出物のリサイクル率を90%以上とすることを目標とした取組み）に基づき、排出物の個別項目毎のリサイクル率の向上を目指した取組みを実施 ○ なかでも競馬開催に関する排出物は、平成27事業年度よりリサイクル率の目標を50%に設定 ○ この結果、令和元事業年度のリサイクル率は、全体：92.6%（前年93.0%）、競馬開催に関する排出物：55.1%（前年55.1%） |
| ② 温室効果ガス排出対策に関する取組み | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所のエネルギー使用量を基にCO₂の排出量を算定し把握するとともに、その排出抑制を目的に |

| | | |
|------------|----------------|---|
| | | <p>策定した「総量削減」と「原単位削減」の複合目標を達成するために、全事業所において省エネルギー推進体制を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 電力需要が高い夏季及び冬季においては、別途「省エネ対策」を作成し、関係団体を含む全事業所において重点的に取組みを実施 ○ 平成31事業年度のCO₂総排出量は95,631 t-CO₂/年（対前年比98.2%）、原単位は0.0244 kl/m²（対前年比99.7%） ○ 競馬学校、東京競馬場及び中山競馬場において、温室効果ガス排出抑制効果が高く、電力の効率化に資する「太陽光発電システム」を運用中 |
| | ③ バイオマスプラントの導入 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 両トレーニング・センターの事業運営の安定化及び環境対応に資する目的で、使用済敷料の新たな処理法として「バイオマス発電システム」を導入 <ul style="list-style-type: none"> 栗東：平成28年1月着工 令和元年10月竣工 美浦：平成30年9月着工 令和5年6月竣工予定 |
| (5) 畜産振興事業 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 3月及び10月に農林水産大臣の認可を得て、交付金を交付（別表12） |

8. CSR等の取組み

| 項目 | 内訳 | 具体的な内容 |
|-----------------|------------|--|
| (1) 情報セキュリティの確保 | | <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報セキュリティ委員会を開催し、情報セキュリティの現状とセキュリティ体制の整備の現状及び今後の方針について確認 ○ 情報セキュリティリテラシーの向上を図るため、全役職員を対象にeラーニングによる教育及び自己点検を実施したほか、新規採用者、新任管理者及び監督者を対象に集合研修を実施 ○ 情報漏えいリスクの低減を目的として、全役職員を対象に標的型攻撃メール訓練を実施 ○ 情報セキュリティ点検として、外部機関によるマネジメント監査及びペネトレーションテストを実施 ○ 競馬開催に関連する各システムにおいて、ファイアウォール（FW）等のセキュリティ機器を適切に運用し、不正アクセスや情報漏えい等の起こらないセキュリティ体制を維持 |
| (2) 法令遵守と透明性の確保 | | |
| | ① コンプライアンス | <ul style="list-style-type: none"> ○ コンプライアンス体制の一層の充実を図るため、 |

| | | |
|------------------------|------------------------------|--|
| | <p>に関すること</p> | <p>役職員が日々守るべき基本的な行動基準を具体化した「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努め、その実践を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 役職員に対し継続的にコンプライアンスに関する研修を実施するとともに、コンプライアンス監査・アンケート等によりコンプライアンス体制の現況について確認、点検し、適宜必要な見直しを実施 |
| | <p>② 個人情報、法人文書等の管理に関すること</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種関係法令・規程等に基づき、個人情報及び法人文書等の厳正な保護・管理を実施するとともに、各種研修・会議において啓発活動を実施、またコンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化 |
| | <p>③ 情報公開に関すること</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づく開示請求は2件 ○ 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づく開示請求は1件 ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の規定に基づき、JRAの経営内容等が記載された文書を、引き続きJRAホームページ等を活用して公開 |
| | <p>④ 契約・入札等に関すること</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 契約・入札の適正化に向けた不断の点検を行い、契約の一層の競争性・公正性の向上を推進 ○ 契約手続の透明性を確保するため、工事、物品の製造・購入、役務等の入札及び契約に関する情報等について、JRAホームページに随時公開 |
| <p>(3) ギャンブル障害への対応</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ○ JRAホームページ、ポスター、CM、新聞広告、レーシングプログラム及び勝馬投票券発売機等における注意喚起文の掲載やリーフレット等における知識の普及啓発を継続的に実施 ○ JRAインフォメーションデスクにおいてお客様への相談対応を実施。また、他種公営競技と連携し、中央競馬・公営競技のお客様及びそのご家族のご相談を一元的・専門的に受け付ける相談窓口として「公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター」を運営 ○ お客様及びそのご家族からの申請により競馬場・ウインズへの入場を制限する制度及びネット投票の利用を停止する制度を実施 ○ 4月に閣議決定されたギャンブル等依存症対策推進基本計画に沿った取組みとして、中京・阪神両競馬場及びウインズ後楽園に設置していたATMの撤去や精神科の医師による役職員向けの講演会等を実施 ○ ギャンブル等依存症対策基本法の第10条で5月 |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>14～20日に設定されているギャンブル等依存症問題啓発週間における取組みとして、大学生向けの啓発セミナー、JRAホームページ等による告知、他種公営競技と連携して作成した啓発ポスターの掲示等を実施</p> |
| <p>(4) 国際協調・国際協力の充実</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際競馬統括機関連盟（IFHA）執行協議会において、常任理事国として種々の世界規模の課題について各国・地域代表者と討議し、有効な方策の検討や各国・地域間の意見を調整。IFHAの各諮問委員会には日本からそれぞれ委員を派遣し、競馬の国際協調及び発展に向けての各専門分野における協議にも積極的に参画 ○ 4回開催されたアジア競馬連盟（ARF）執行協議会においてARF副会長国として国際間における課題解決への取組みを推進。特に薬物規制の強化、ワールドランキングにおける質的管理、海外違法賭事の取り締まり、馬の国際間移動の促進などに向けて実効性を伴う施策を検討。また、ARFの諮問委員会であるアジアパターン委員会（APC）については、9月に東京で開催し、会議期間中ホスト国として会議を主催 ○ 日本の競馬産業全般を学習するためのARF定期研修（5～6月）に、8カ国8名が参加、また、競馬に関する専門的スキル等を習得するためのARF専門研修（6月）に4カ国4名が参加 ○ 年間を通じて中国国内の馬産業及び競馬事情の調査を実施。また、馬産業関係者に対する日本での研修を計3回15名に実施（6月・8月・11月）。また、JRA獣医師による獣医技術現地研修を行い（9月）、日中間の人材交流を推進 ○ 諸外国との交流の一環として、アメリカ他18の国・地域との交換競走を滞りなく実施。特に10月のアイルランドトロフィー府中牝馬ステークスにおいては、本年ラグビーワールドカップが日本で開催されたことを記念して、アイルランド大使館と連携してアイルランドに関する各種イベント等を場内で実施し、国際的な雰囲気醸成 |
| <p>(5) 次世代育成</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 獣医系・畜産系学生を対象とした研修として、競走馬総合研究所における「馬臨床サマースクール」や日高育成牧場における「サマーセミナー」・「スプリングキャンプ」を実施 ○ 競走馬の獣医師を目指す学生を支援することを目的とした奨学金事業を実施 |

| | |
|----------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼少期から馬への理解を深め、生き物を通じた豊かな人間性の形成に寄与するよう、事業所から実馬を派遣し「小学校出張授業」を実施するとともに、キッズニア甲子園に「ホースパーク」パビリオンを年間を通じて出展。また、栗東トレーニング・センターの施設や設備等を活用した本格的な職業体験プラン（獣医師・装蹄師）となる「アウトオブキッズニア in 栗東」を実施 ○ 乗馬に取り組む子供たちの目標となる大会として、全国ポニー競馬選手権「第11回ジョッキーベイブズ」を実施（全国8地区の代表決定戦で8名の選手を選出し、決勝大会を10月14日に東京競馬場で実施） |
| <p>(6) 効率的な業務運営</p> | <p>【経費負担の抑制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ウインズの効率的なフロア運用（一部の時期限定または年間閉鎖）について、混雑度等を元に検証を行い、6ウインズ（ウインズ錦糸町・ウインズ浅草・ウインズ汐留・ウインズ立川・ウインズ神戸・ウインズ広島）でフロア等の縮減を実施 <p>【資産の有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジャパンカップにおけるロンジン社とのパートナーシップを継続し、お客様への還元とともに、同社のブランドイメージや競馬をイメージした広告展開でのジャパンカップのPRにより、国際的なスポーツエンターテインメントとしての雰囲気を醸成 <p>【インターネット投票における地方競馬の受託発売の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ A-PAT会員及び即PAT会員向けに、インターネット投票による地方競馬の受託発売を実施（発売日数237日、発売金約1,023億円） <p>【人材教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員に対し、個々の更なる能力向上や組織の活性化のため以下の研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 人材育成における中長期的目的達成のための階層別研修 ◇ 部門・分野によって必要となる高度な専門的知識習得のための専門研修及び業務遂行上で求められる一般的で普遍的な知識・資格習得の機会付与を目的とした一般研修 ○ 関連団体の職員を対象とした研修等を実施し、JRAについての知識と理解を深めるとともに、JRAグループの一員としての意識を向上 |

<別表目次>

- 別表 1 (開催競馬場別開催実績) P 35
- 別表 2 (令和元事業年度の各種実績) P 36
- 別表 3 (開催回数の推移) P 37
- 別表 4 (開催日数及び競走回数の推移) P 37
- 別表 5 (出走頭数の推移) P 37
- 別表 6 (お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移) P 38
- 別表 7 (発売金の推移) P 38
- 別表 8 (電話・インターネット投票会員数の推移) P 39
- 別表 9 (投票法毎の発売金の構成比の推移) P 39
- 別表 10 (馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移) P 40
- 別表 11 (国際競走等の状況) P 41
- 別表 12 (特別振興事業について) P 42
- 別表 13 (JRA賞 受賞馬及び受賞者) P 56
- 別表 14 (地方競馬全国協会を通じた交付金の交付) P 57

1. 開催競馬場別開催実績

| | 回数 | 日数 | 競走回数 | 出走延頭数 | 入場人員 | 発売金額 |
|----|----|-----|-------|--------|-----------|-------------------|
| 札幌 | 2回 | 12日 | 144競走 | 1,799頭 | 207,341名 | 82,480,448,800円 |
| 函館 | 2 | 12 | 144 | 1,688 | 85,582 | 73,100,271,000 |
| 福島 | 3 | 20 | 240 | 3,458 | 236,616 | 128,974,694,400 |
| 新潟 | 3 | 26 | 312 | 4,392 | 347,212 | 191,457,316,800 |
| 中山 | 5 | 41 | 492 | 7,100 | 1,089,686 | 533,348,137,300 |
| 東京 | 5 | 45 | 536 | 7,417 | 1,762,125 | 615,807,440,000 |
| 中京 | 4 | 26 | 312 | 4,403 | 392,831 | 200,770,551,200 |
| 京都 | 5 | 44 | 528 | 7,009 | 1,030,447 | 482,233,005,600 |
| 阪神 | 5 | 42 | 504 | 6,641 | 846,646 | 455,758,203,700 |
| 小倉 | 2 | 20 | 240 | 3,438 | 237,711 | 130,004,024,700 |
| 計 | 36 | 288 | 3,452 | 47,345 | 6,236,197 | 2,893,934,093,500 |

2. 競走成績

| サラブレッド系 | 競走回数 | | | | 出走延頭数 | 出走実頭数 | 1競走平均出走頭数 |
|---------|-------|------|------|-------|--------|---------|-----------|
| | 一般競走 | 特別競走 | 重賞競走 | 合計 | | | |
| 2歳 | 594回 | 42回 | 14回 | 650回 | 8,538頭 | 3,319頭 | 13.1頭 |
| 3歳以上 | 1,819 | 741 | 115 | 2,675 | 37,239 | 7,973 | 13.9 |
| 障害 | 109 | 8 | 10 | 127 | 1,568 | 503 | 12.3 |
| 合計 | 2,522 | 791 | 139 | 3,452 | 47,345 | ※11,546 | 13.7 |

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、249頭

◎ 令和元事業年度の各種実績

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| ①開催回数・開催日数 | 36回・288日 |
| ②競走回数 | 3,452競走（前年実績 3,454競走） |
| ③出走延頭数 | 47,345頭（前年実績 48,433頭） |
| ④勝馬投票券の発売金 | 2,911,708,501,300円（対前年比 103.4%） |
| ⑤開催競馬場の入場人員 | 6,236,197名（対前年比 99.5%） ^{※1} |
| ⑥お客様総数 ^{※2} | 185,465,295名（対前年比 103.0%） |

^{※1}うち女性入場人員は1,084,515名（対前年比 99.7%）。全体比 17.4%。

^{※2}開催競馬場の入場人員にパークウインズ(5,992,460名)、場外発売所(42,396,320名)、電話・インターネット投票(130,840,318名（含む海外競馬の利用者 3,168,963名）)の利用者数を加えたもの。

● 開催日程の変更等

- ※ 降雪の影響により、第1回東京競馬第5日（2月9日）を中止し、2月11日に代替競馬を実施
- ※ ひょうの影響により、第2回東京競馬第5日（5月4日）の第10競走以降の3競走を取りやめ
- ※ 台風の影響により、第4回東京競馬第3日（10月12日）を中止し、10月15日に代替競馬を実施
- ※ 台風の影響により、第4回東京競馬第4日（10月13日）を中止し、10月21日に代替競馬を実施

〔発売金〕

| | | 対前年比 | 構成比(前年) ^{※1} |
|----------------|--------------------|--------|-----------------------|
| 中央競馬発売金 | 2,893,934,093,500円 | 103.2% | - |
| (内訳) | | | |
| 開催場における自場分 | 84,487,787,600円 | 98.9% | 2.9%(3.0%) |
| " 他場分 | 51,126,777,600円 | 95.7% | 1.8%(1.9%) |
| パークウインズ | 123,211,882,600円 | 95.8% | 4.3%(4.6%) |
| 場外発売所 | 601,490,096,300円 | 98.3% | 20.8%(21.8%) |
| 電話・インターネット投票 | 2,033,617,549,400円 | 105.6% | 70.3%(68.7%) |
| 海外競馬発売金 | 17,774,407,800円 | 163.4% | - |
| 発売金（中央競馬+海外競馬） | 2,911,708,501,300円 | 103.4% | - |

^{※1}構成比については、端数処理をしているため、合計が100%とならない場合がある。

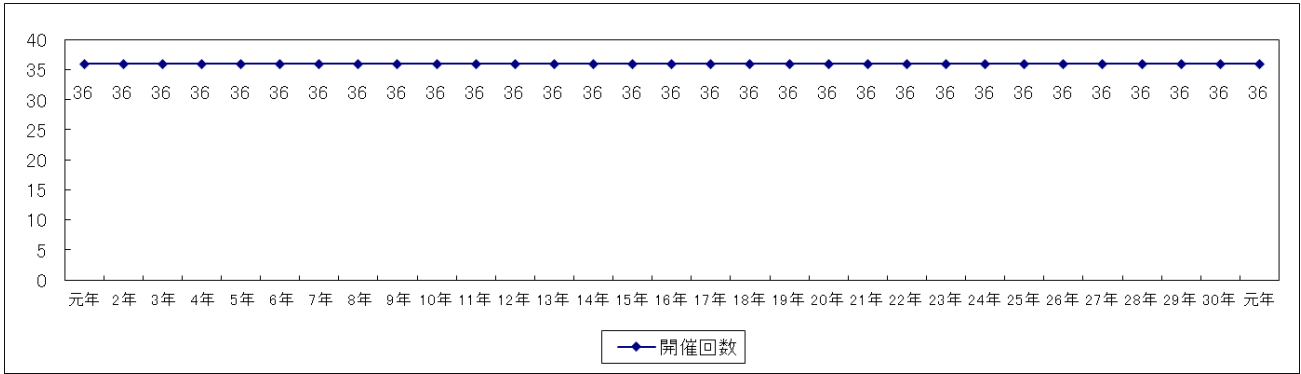
- 10競馬場、39場外発売所（盛岡・水沢・佐賀^{※2}の地方競馬場含む）及び電話・インターネット投票において勝馬投票券発売業務を実施。
- ウインズ浦和・ウインズ川崎・ウインズ三本木を含む55か所の地方競馬施設^{※3}に勝馬投票券発売業務を委託。
- 中央競馬の発売金（海外競馬及びWIN5を除く）に占める重賞競走の割合は31.0%（前年実績31.7%）、GI競走の割合は14.9%（前年実績15.4%）。
- GI競走の発売金は対前年比101.5%^{※4}となり、前年実績を上回った競走は、全24競走中15競走。
- 海外競馬の発売を21競走で実施。

^{※2}ウインズ佐賀は8月18日で発売を終了した。

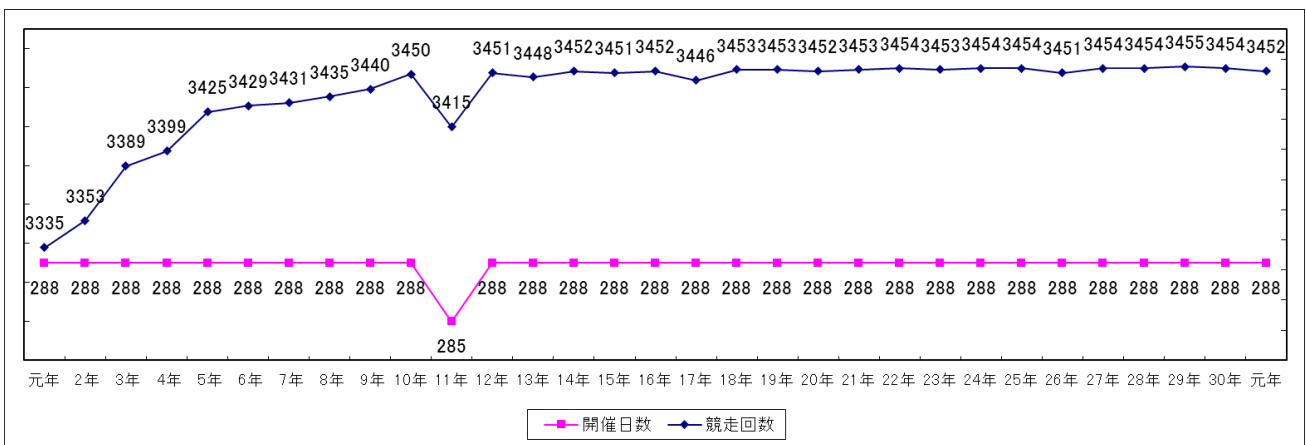
^{※3}J-PLACE札幌駅前とJ-PLACE鳥栖は9月28日にそれぞれ発売を開始した。

^{※4}平成30年に実施したJBC3競走は前年実績に含まない。

【別表 3】開催回数の推移（平成元年以降）

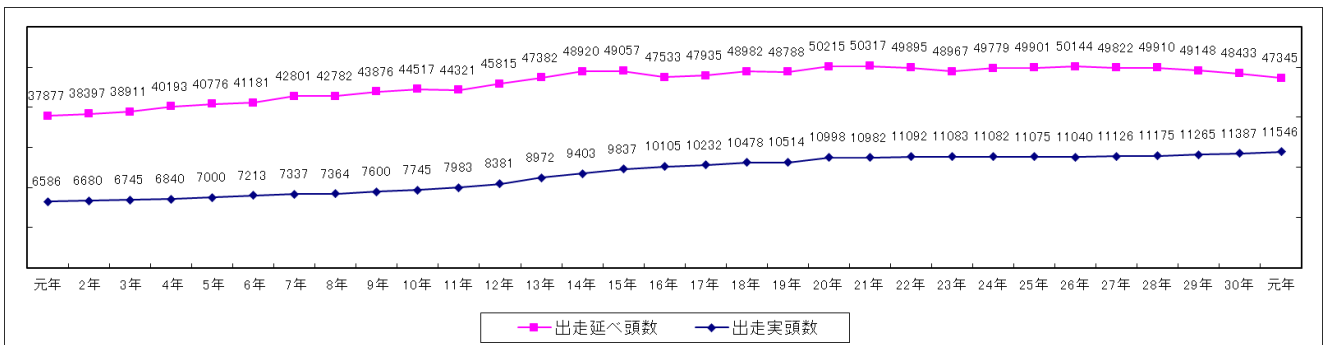


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

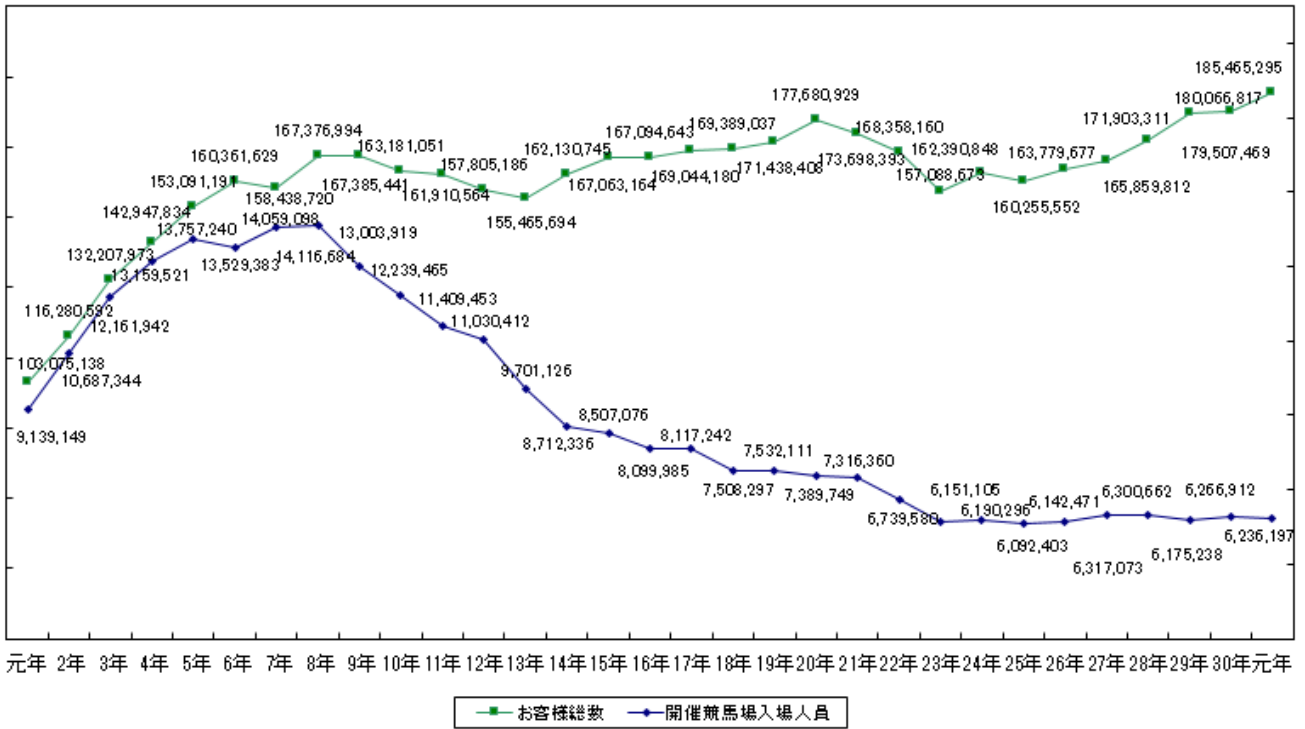


注) 平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

【別表 5】出走頭数の推移（平成元年以降）

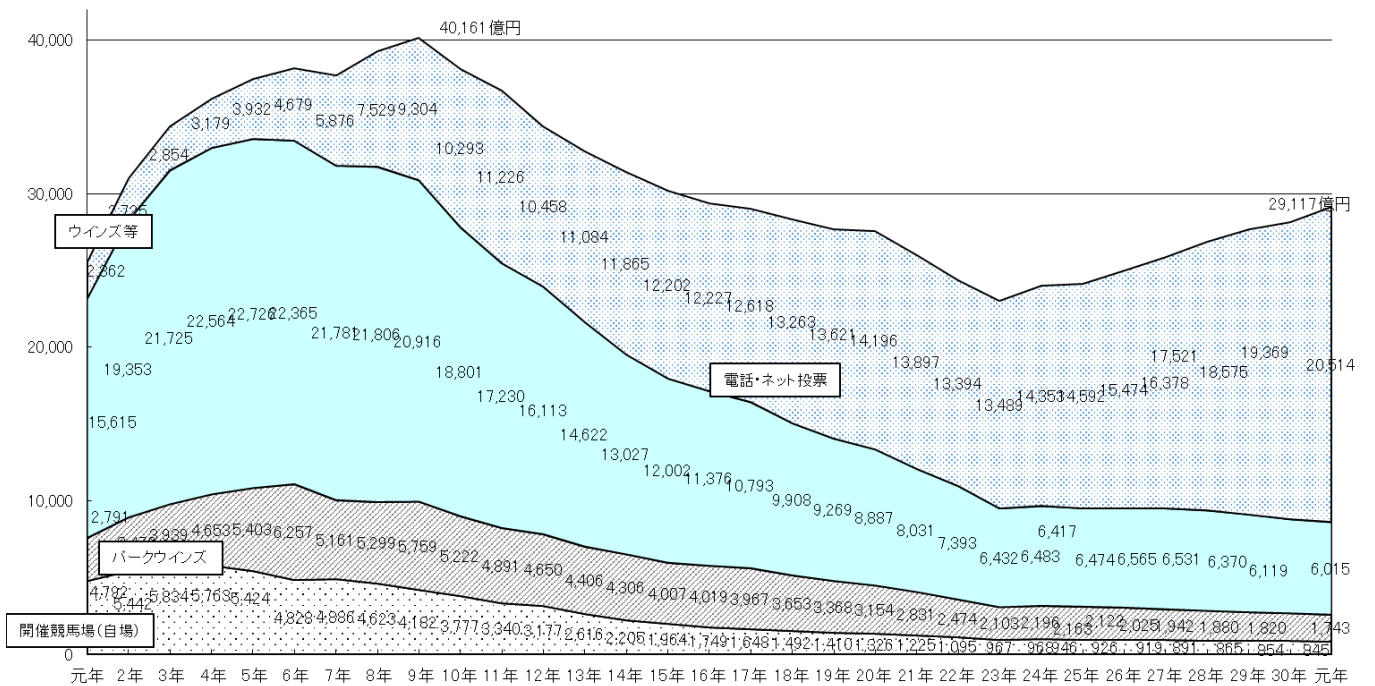


【別表6】お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移

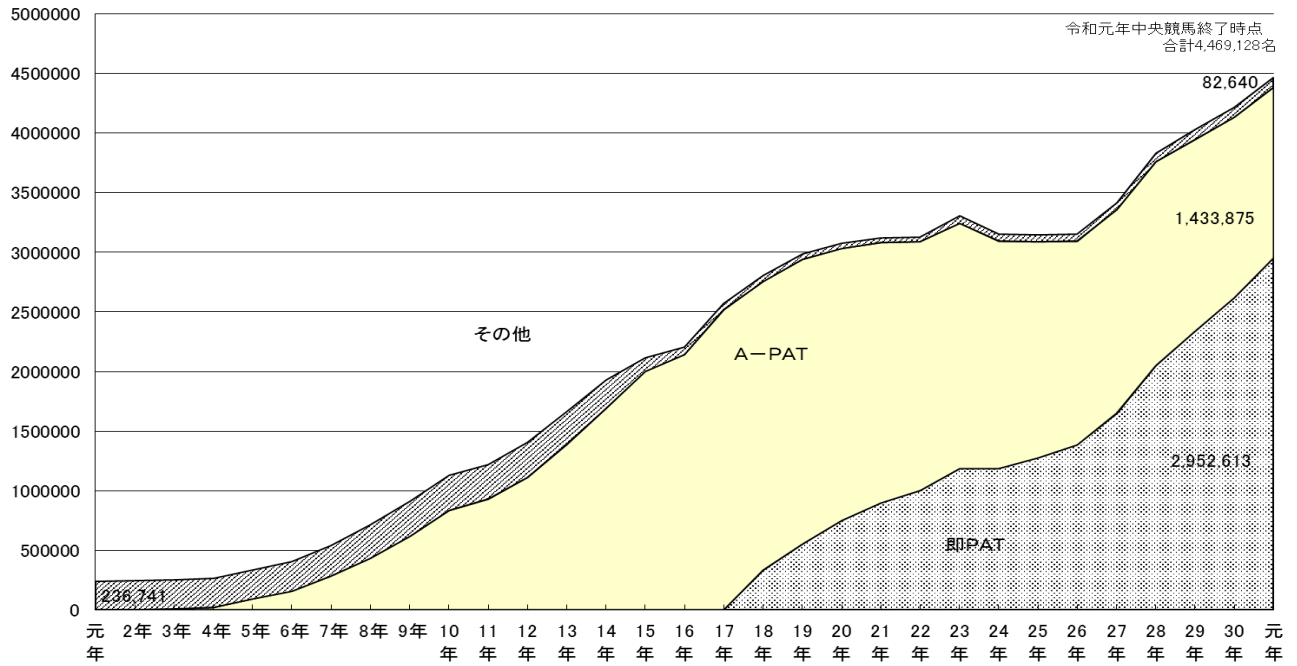


【別表7】発売金の推移

○ 発売金の推移(単位:億円)



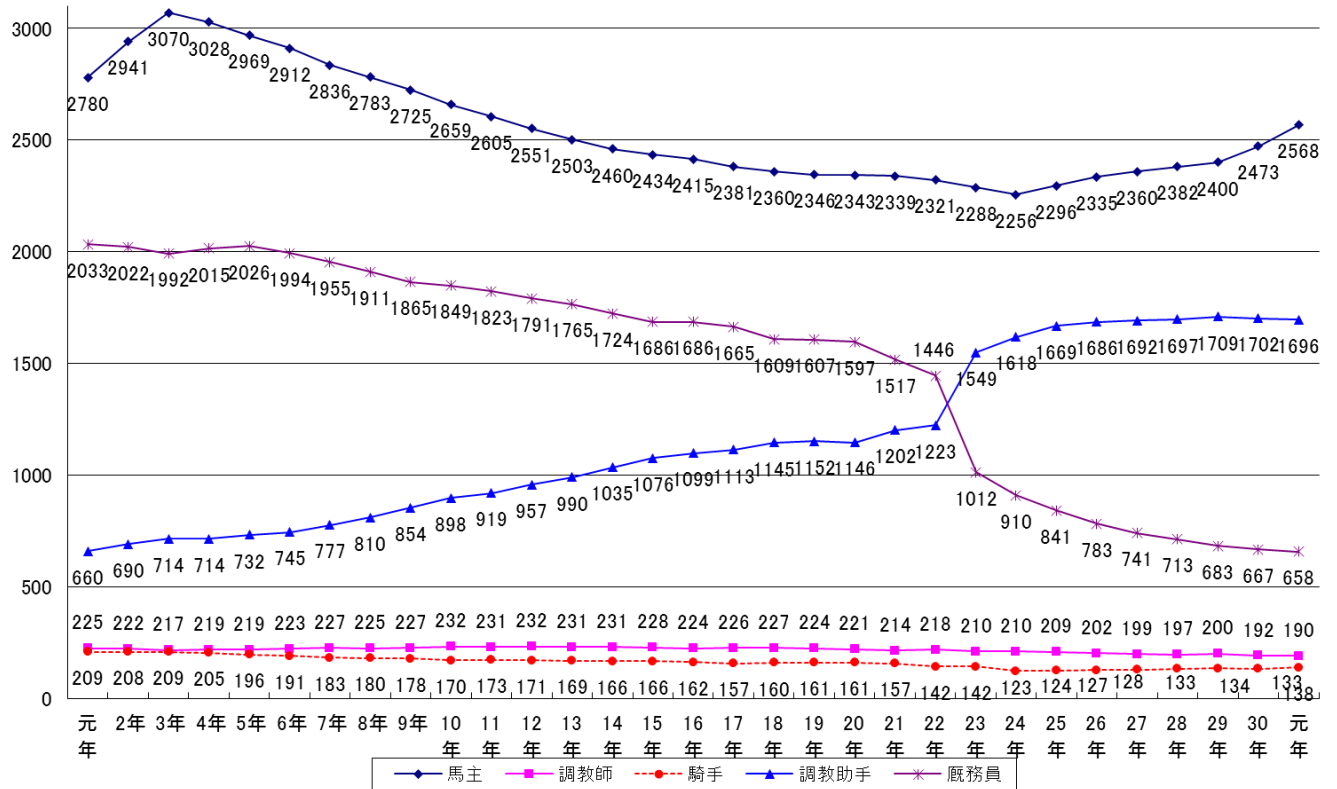
【別表 8】 電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）



【別表 9】 投票法毎の発売金の構成比（%）の推移（平成元年以降） ※ 海外競馬分を除く

| | 単勝 | 複勝 | 枠連 | 馬連 | ワイド | 馬単 | 3連複 | 3連単 | WIN5 |
|------|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| 平成元年 | 2.8 | 2.2 | 94.9 | - | - | - | - | - | - |
| 2年 | 2.8 | 2.2 | 95.0 | - | - | - | - | - | - |
| 3年 | 2.9 | 2.3 | 81.3 | 13.5 | - | - | - | - | - |
| 4年 | 2.7 | 2.3 | 35.4 | 59.6 | - | - | - | - | - |
| 5年 | 2.8 | 2.5 | 26.6 | 68.1 | - | - | - | - | - |
| 6年 | 2.7 | 2.6 | 22.9 | 71.8 | - | - | - | - | - |
| 7年 | 2.6 | 2.6 | 19.9 | 74.9 | - | - | - | - | - |
| 8年 | 2.6 | 2.6 | 17.8 | 77.0 | - | - | - | - | - |
| 9年 | 2.8 | 2.8 | 16.4 | 78.0 | - | - | - | - | - |
| 10年 | 3.1 | 2.9 | 15.1 | 78.9 | - | - | - | - | - |
| 11年 | 3.1 | 3.0 | 12.9 | 79.3 | 1.7 | - | - | - | - |
| 12年 | 3.0 | 2.4 | 10.9 | 70.5 | 13.2 | - | - | - | - |
| 13年 | 3.1 | 2.4 | 9.9 | 70.4 | 14.2 | - | - | - | - |
| 14年 | 2.8 | 2.4 | 8.3 | 54.7 | 10.8 | 10.9 | 10.1 | - | - |
| 15年 | 2.7 | 2.5 | 6.4 | 34.2 | 5.8 | 24.1 | 24.3 | - | - |
| 16年 | 2.9 | 2.7 | 5.8 | 28.2 | 4.9 | 22.0 | 25.5 | 8.0 | - |
| 17年 | 3.1 | 3.3 | 4.7 | 21.1 | 4.2 | 17.2 | 19.3 | 27.1 | - |
| 18年 | 3.4 | 4.0 | 4.8 | 19.6 | 4.4 | 15.7 | 19.4 | 28.7 | - |
| 19年 | 3.8 | 4.2 | 4.6 | 18.6 | 4.4 | 14.5 | 20.1 | 29.8 | - |
| 20年 | 3.7 | 5.1 | 4.3 | 17.1 | 4.3 | 12.4 | 19.2 | 33.9 | - |
| 21年 | 3.9 | 5.9 | 4.0 | 15.6 | 4.5 | 10.4 | 18.0 | 37.7 | - |
| 22年 | 4.2 | 6.4 | 3.8 | 15.1 | 4.8 | 9.8 | 18.7 | 37.3 | - |
| 23年 | 4.5 | 7.2 | 3.5 | 14.3 | 5.1 | 9.1 | 18.1 | 36.2 | 2.0 |
| 24年 | 4.7 | 7.6 | 3.6 | 13.9 | 5.4 | 8.7 | 18.2 | 35.8 | 2.1 |
| 25年 | 5.0 | 8.3 | 3.5 | 13.6 | 5.5 | 8.5 | 18.2 | 35.6 | 1.8 |
| 26年 | 5.3 | 8.6 | 3.5 | 14.3 | 6.0 | 7.9 | 18.6 | 34.2 | 1.5 |
| 27年 | 5.5 | 7.7 | 3.6 | 15.1 | 6.8 | 7.6 | 19.6 | 32.7 | 1.4 |
| 28年 | 5.6 | 8.1 | 3.4 | 14.5 | 7.2 | 7.2 | 19.9 | 32.8 | 1.3 |
| 29年 | 5.9 | 8.4 | 3.3 | 14.4 | 7.6 | 6.9 | 20.1 | 32.2 | 1.2 |
| 30年 | 6.2 | 8.7 | 3.1 | 14.3 | 8.2 | 6.6 | 20.1 | 31.5 | 1.3 |
| 令和元年 | 6.4 | 8.8 | 2.9 | 13.8 | 8.8 | 6.4 | 20.5 | 31.0 | 1.2 |

【別表 10】馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表 11】 国際競走等の状況

(1) J R A所属馬の海外遠征状況

| 出走月日 | 開催国 | 競走名 | グレード | 馬場 | 距離 | 馬名 | 騎手名 | 調教師名 | 着順/出走頭数 |
|--------|---------|---------------------------|------|-----|-------|-----------|-----------|-------|---------|
| 1月26日 | アメリカ | ペガサスワールドカップターフ | G1 | 芝 | 1900m | アエロリット | F. ジェルー | 菊沢 隆徳 | 9/10 |
| 2月22日 | カタール | アイリッシュサラブレッドマーケティングカップ | G2 | 芝 | 1600m | ユウチエンジ | 阿部 龍 | 森 秀行 | 9/14 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ゴドルフィンマイル | G2 | ダート | 1600m | ノンコノユメ | J. モレイラ | 加藤 征弘 | 10/12 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | UAEダービー | G2 | ダート | 1900m | デルマルーヴル | C. ルメール | 戸田 博文 | 4/14 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイゴールデンシャヒーン | G1 | ダート | 1200m | マテラスカイ | 武 豊 | 森 秀行 | 2/9 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイターフ | G1 | 芝 | 1800m | アーモンドアイ | C. ルメール | 国枝 栄 | 1/13 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイターフ | G1 | 芝 | 1800m | ヴィブロス | M. バルザローナ | 友道 康夫 | 2/13 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイターフ | G1 | 芝 | 1800m | ディアドラ | J. モレイラ | 橋田 満 | 4/13 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイシーマクラシック | G1 | 芝 | 2410m | シュヴァルグラン | H. ボウマン | 友道 康夫 | 2/8 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイシーマクラシック | G1 | 芝 | 2410m | スワーヴリチャード | J. モレイラ | 庄野 靖志 | 3/8 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイシーマクラシック | G1 | 芝 | 2410m | レイデオロ | C. ルメール | 藤沢 和雄 | 6/8 |
| 3月30日 | UAE・ドバイ | ドバイワールドカップ | G1 | ダート | 2000m | ケイティブレイベ | J. モレイラ | 杉山 晴紀 | 出走取消 |
| 4月6日 | オーストラリア | ドンカスターマイル | G1 | 芝 | 1600m | クルーガー | T. ベリー | 高野 友和 | 4/20 |
| 4月13日 | オーストラリア | クイーンエリザベスステークス | G1 | 芝 | 2000m | クルーガー | T. ベリー | 高野 友和 | 2/9 |
| 4月28日 | 香港 | チュアマンスプリントプライズ | G1 | 芝 | 1200m | ナックビーナス | 武 豊 | 杉浦 宏昭 | 6/9 |
| 4月28日 | 香港 | クイーンエリザベスII世カップ | G1 | 芝 | 2000m | ウインブライト | 松岡 正海 | 畠山 吉宏 | 1/13 |
| 4月28日 | 香港 | クイーンエリザベスII世カップ | G1 | 芝 | 2000m | リスグラシュー | O. マーフィー | 矢作 芳人 | 3/13 |
| 4月28日 | 香港 | クイーンエリザベスII世カップ | G1 | 芝 | 2000m | ディアドラ | 武 豊 | 橋田 満 | 6/13 |
| 5月4日 | アメリカ | ケンタッキーダービー | G1 | ダート | 2000m | マスターフェンサー | J. ルバルー | 角田 晃一 | 6/19 |
| 6月8日 | アメリカ | ベルモントステークス | G1 | ダート | 2400m | マスターフェンサー | J. ルバルー | 角田 晃一 | 5/10 |
| 6月19日 | イギリス | プリンスオブウェールズステークス | G1 | 芝 | 1990m | ディアドラ | 武 豊 | 橋田 満 | 6/8 |
| 7月6日 | アメリカ | ベルモントオークス招待 | G1 | 芝 | 2000m | ジョディー | 武藤 雅 | 戸田 博文 | 4/9 |
| 7月6日 | アメリカ | ベルモントダービー招待 | G1 | 芝 | 2000m | マスターフェンサー | 浜中 俊 | 角田 晃一 | 13/14 |
| 7月27日 | イギリス | キングジョージVI世&クイーンエリザベスステークス | G1 | 芝 | 2390m | シュヴァルグラン | O. マーフィー | 友道 康夫 | 6/11 |
| 8月1日 | イギリス | ナッソーステークス | G1 | 芝 | 1980m | ディアドラ | O. マーフィー | 橋田 満 | 1/9 |
| 8月21日 | イギリス | インターナショナルステークス | G1 | 芝 | 2050m | シュヴァルグラン | O. マーフィー | 友道 康夫 | 8/9 |
| 9月14日 | アイルランド | アイリッシュチャンピオンステークス | G1 | 芝 | 2000m | ディアドラ | O. マーフィー | 橋田 満 | 4/8 |
| 9月15日 | フランス | フォワ賞 | G2 | 芝 | 2400m | キセキ | C. スミヨン | 角居 勝彦 | 3/4 |
| 10月6日 | フランス | 凱旋門賞 | G1 | 芝 | 2400m | キセキ | C. スミヨン | 角居 勝彦 | 7/12 |
| 10月6日 | フランス | 凱旋門賞 | G1 | 芝 | 2400m | ブラストワンピース | 川田 将雅 | 大竹 正博 | 11/12 |
| 10月6日 | フランス | 凱旋門賞 | G1 | 芝 | 2400m | フィエールマン | C. ルメール | 手塚 貴久 | 12/12 |
| 10月12日 | オーストラリア | コーフィールドステークス | G1 | 芝 | 2000m | スズカデヴィアス | M. ディー | 橋田 満 | 8/10 |
| 10月19日 | オーストラリア | コーフィールドカップ | G1 | 芝 | 2400m | メールドグラス | D. レーン | 清水 久詞 | 1/18 |
| 10月19日 | イギリス | チャンピオンステークス | G1 | 芝 | 2000m | ディアドラ | O. マーフィー | 橋田 満 | 3/9 |
| 10月26日 | オーストラリア | コックスプレート | G1 | 芝 | 2040m | リスグラシュー | D. レーン | 矢作 芳人 | 1/14 |
| 10月26日 | オーストラリア | コックスプレート | G1 | 芝 | 2040m | クルーガー | T. ベリー | 高野 友和 | 13/14 |
| 11月1日 | アメリカ | ブリーダーズカップジュベナイル | G1 | ダート | 1700m | フルフラット | 武 豊 | 森 秀行 | 5/8 |
| 11月2日 | アメリカ | ブリーダーズカップスプリント | G1 | ダート | 1200m | マテラスカイ | 武 豊 | 森 秀行 | 8/8 |
| 11月5日 | オーストラリア | メルボルンカップ | G1 | 芝 | 3200m | メールドグラス | D. レーン | 清水 久詞 | 6/24 |
| 11月9日 | オーストラリア | マッキンソンステークス | G1 | 芝 | 2000m | クルーガー | K. マカヴォイ | 高野 友和 | 8/16 |
| 11月9日 | オーストラリア | マッキンソンステークス | G1 | 芝 | 2000m | スズカデヴィアス | M. ディー | 橋田 満 | 7/16 |
| 11月23日 | オーストラリア | バララットカップ | L | 芝 | 2000m | スズカデヴィアス | M. ディー | 橋田 満 | 10/16 |
| 12月8日 | 香港 | 香港ヴァーズ | G1 | 芝 | 2400m | ラッキーライラック | C. スミヨン | 松永 幹夫 | 2/14 |
| 12月8日 | 香港 | 香港ヴァーズ | G1 | 芝 | 2400m | グローリーヴェイズ | J. モレイラ | 尾関 知人 | 1/14 |
| 12月8日 | 香港 | 香港ヴァーズ | G1 | 芝 | 2400m | ディアドラ | O. マーフィー | 橋田 満 | 4/14 |
| 12月8日 | 香港 | 香港スプリント | G1 | 芝 | 1200m | ダノンマッシュ | L. デットーリ | 安田 隆行 | 8/12 |
| 12月8日 | 香港 | 香港マイル | G1 | 芝 | 1600m | ノームコア | C. ルメール | 萩原 清 | 4/10 |
| 12月8日 | 香港 | 香港マイル | G1 | 芝 | 1600m | インディチャンプ | D. レーン | 音無 秀孝 | 7/10 |
| 12月8日 | 香港 | 香港マイル | G1 | 芝 | 1600m | アドマイヤマーズ | C. スミヨン | 友道 康夫 | 1/10 |
| 12月8日 | 香港 | 香港マイル | G1 | 芝 | 1600m | ベルシアンナイト | O. マーフィー | 池江 泰寿 | 5/10 |
| 12月8日 | 香港 | 香港カップ | G1 | 芝 | 2000m | ウインブライト | 松岡 正海 | 畠山 吉宏 | 1/8 |

(2) 外国馬の J R A競走への出走状況

なし

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（令和元事業年度）

【JRA直接実施事業】

| 事業名 | 事業内容 | 実施額（円） |
|---|--|----------------|
| 1. JR船橋法典駅のバリアフリー化調査設計事業 | JR船橋法典駅から中山競馬場への競馬開催日の臨時改札口のバリアフリー化に向けた調査設計 | 18,700,000 |
| 2. キャッシュレス投票システム開発事業 | キャッシュレス投票の導入に向けたシステム開発 | 106,530,000 |
| 3. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・ 競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・ メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・ 馬を活用した催事等の実施 | 2,434,851,707 |
| 4. 厩舎関係者救護体制円滑化事業 | 医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化 | 10,870,172 |
| 5. 競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業 | 競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金制度 | 14,190,000 |
| 6. 国際競馬振興事業 | アジア競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等 | 40,647,228 |
| 7. 地方競馬ネット投票システム機能改善事業 | 地方競馬ネット投票発売を円滑に行うための機能改善、投票画面のリニューアル | 237,283,025 |
| 8. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【直接実施分】 | 東京競馬場等の馬術競技会開催に必要な競技用馬の確保等支援 | 6,711,414 |
| 9. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【直接実施分】 | 引退競走馬の諸課題に関する調査研究、障害者乗馬・ホースセラピー等活動支援啓発 | 172,435,452 |
| 10. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた会場整備等支援事業 | 東京オリパラ組織委員会の取組みへの協力を通じた、馬事振興・競馬産業への理解醸成 | 5,000,000,000 |
| 11. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技開催に向けたJRA馬事公苑整備事業 | JRA馬事公苑諸施設の整備 | 14,165,503,569 |
| 合計 | | 22,207,722,567 |

【助成事業】

| 事業名 | 事業実施主体 | 事業内容 | 交付額(円) |
|---|-------------------------------|--|---------------|
| 1.厩舎関係者海外研修事業 | (一社)日本調教師会 | 厩舎関係者に対する研修の実施 | 25,000,000 |
| 2.調教補助設備導入支援事業 | (一社)日本調教師会 | トレーニング・センターにおける調教補助設備(ウォーキングマシン)導入に係る支援 | 25,230,182 |
| 3.JBBA 人材養成事業用施設整備事業 | (公社)日本軽種馬協会 | J B B Aが行っている軽種馬育成技術者養成研修の施設改修 | 149,865,590 |
| 4.引退名馬繋養展示事業 | (公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル | 競馬の発展に貢献した名馬とのふれあい創出、名馬の余生の環境作り | 39,489,332 |
| 5.競走馬マイクロチップ埋込推進事業 | (公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル | マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助 | 18,448,124 |
| 6.日本競馬の情報・技術発信事業 | (公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル | 海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術発信 | 95,974,508 |
| 7.地方競馬との共同広報事業 | 特別区競馬組合 兵庫県競馬組合 佐賀県競馬組合 | 地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝 | 169,049,973 |
| 8.軽種馬改良情報システム整備事業 | (公社)日本軽種馬協会 | 軽種馬改良情報システムの改修 | 87,000,000 |
| 9.地方競馬振興促進事業 | 各地方競馬主催者等 | 地方競馬場、発売施設の整備等 | 134,228,360 |
| 10.競走馬理化学研究所における新薬物検査体制の確立事業 | (公財)競走馬理化学研究所 | 国際標準に合致した薬物検査体制の構築・整備 | 674,000,000 |
| 11.競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業 | (公財)競走馬理化学研究所 | 競走馬の不正な遺伝子操作の抑止及び規制に係る事業 | 53,000,000 |
| 12.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬術競技強化対策事業 | (公社)日本馬術連盟 | 東京オリンピック・パラリンピックで好成績をあげるための選手強化、優良競技馬の確保等 | 1,485,300,000 |
| | (公社)日本近代五種協会 | | 87,000,000 |
| 13.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【助成分】 | (公社)日本馬術連盟 | 馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援 | 125,000,000 |
| | (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 | | 231,275,900 |
| 14.東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【助成分】 | (公社)全国乗馬倶楽部振興協会 | 馬に係わる人材の養成、障害者乗馬・ホースセラピー活動の充実、引退競走馬の乗用馬への転用促進等 | 273,000,000 |
| 合計 | | | 3,672,861,969 |

②畜産振興事業（令和元事業年度）

| | 事業名 | 事業実施主体 | 事業内容 | 交付決定額 (千円) |
|---|---------------------|-------------------|--|---------------|
| 1 | 東日本大震災被災地飼養馬の福祉向上事業 | 国立大学法人 鹿児島大学 | 東日本大震災の被災地で飼養される馬の飼養管理状況、健康状態及び防疫状況を継続的に調査した上で、適切な飼養管理法及び防疫指導を行うとともに、震災後に被災地で誕生した馬についても重点的に健康状態を調査し、放射線被曝の影響の有無を検討することにより、被災地で飼養される馬をより快適で健康的に飼養するための指針を作成することを目的とする。 | 10,901 |
| 2 | 畜産経営雇用促進調査事業 | 一般社団法人 全日本畜産経営者協会 | 畜産経営において、少子高齢化、若者の都市への流出等による雇用の減少が経営規模の維持・拡大に障害となっていることから、畜産経営の雇用の促進を図るため、雇用の実態と雇用確保の取組みについてのアンケート調査・事例調査を行うとともに、その調査結果をもとに畜産経営者が参加するワークショップやセミナーにおいて検討を行い、雇用確保に関する情報やノウハウを内容とした「雇用対策の指針」を取りまとめ、その普及啓発することを目的とする。 | 10,656 |
| 3 | 酪農家の働き方改革実証調査事業 | 公益財団法人 日本生産性本部 | 酪農経営の集約化、大規模化の進展による働き方改革の流れに伴い、主に現場での作業の見直し活動等(以下、「カイゼン」という。)による酪農家の労働負担の軽減を図るため、そのマネジメント体制や働き方等に関する課題を可視化するとともに、モデル農家における労働生産性や機械化による効率化等の仕組み作り等による現場カイゼンや管理職教育等による経営カイゼンの導入効果の測定検証を行うとともに、その成果を「酪農カイゼンパッケージ」として提示することを目的とする。 | 11,831 |
| 4 | 養蜂女性の経営参加促進のための研修事業 | 公益社団法人 国際農林業協働協会 | 地域の養蜂経営において、女性の働きやすい環境整備や女性の経営への積極的な参加を促進するため、養蜂に関与する女性に対する技術研修や意見交換の機会を提供することを目的とする。 | 4,716 |
| 5 | 未来の畜産女子育成プロジェクト | 公益社団法人 国際農業者交流協会 | 畜産業への女性の参画を推進するため、畜産業が盛んで、かつ女性が活躍している酪農、養豚等の先進諸外国において、農業高等学校女子生徒を対象とした研修を実施し、畜産業の広い視野と国際感覚等を養うことにより次世代畜産界を担う農業女子人材を育成することを目的とする。 | 70,746 |

| | | | | |
|----|-------------------------------|---------------------|---|--------|
| 6 | 豚レンサ球菌感染の新規迅速診断法の開発事業 | 国立大学法人 京都大学 | 豚レンサ球菌感染を病原性に基づいて迅速かつ簡便に診断するため、豚レンサ球菌の抗原分子を同定するとともに、これに対する特異的な人工抗体を作成し、さらに病原性を簡便に判別できる抗原抗体反応を利用した迅速検査法（以下、「イミュノクロマト法」という。）を開発することを目的とする。 | 39,561 |
| 7 | 畜産物によるアレルギー低減のための技術開発普及事業 | 国立大学法人 東京大学 | 畜産物によるアレルギー低減を図るため、卵、牛乳等の食物アレルギーの原因食材となることの多い畜産物の中からアレルギー抑制に有効な食品素材を探索、選定し、畜産物によるアレルギー低減技術を開発するとともに、畜産物によるアレルギーの発症機序や予防・緩和方法についての普及を行うことを目的とする。 | 21,437 |
| 8 | ウシの妊孕性向上システムの創出事業 | 公立大学法人 宮城大学 | 牛の受胎率の低下を改善するため、初期卵胞の発育を促し卵巣中の胞状卵胞数を高めることで、繁殖牛の妊孕性を向上させる卵胞活性化法と脂肪細胞から産生されるホルモンの一種であるアディオカイン濃度をもとに母体のエネルギーバランスを数値化し、妊孕性を診断する妊孕性診断キットの開発を行うことを目的とする。 | 72,357 |
| 9 | 東京大会における意図的異物混入対策事業 | 公立大学法人 奈良県立医科大学 | 国際的な大規模イベントにおける食品への意図的異物等の混入の防止対策を構築するため、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京大会」という）において、飲食物を提供する事業者（以下「飲食提供事業者」という）が行うべき食品防衛対策を検討し、ガイドラインや教育支援ツールを取りまとめ、飲食提供事業者に周知・助言等を行うとともに、東京大会後においても大規模イベントへの出店等を行う飲食事業者へ周知し、今後の対応を促すことを目的とする。 | 62,725 |
| 10 | ジビエ理解醸成による畜産物の生産環境保全・安全確保推進事業 | 公益財団法人 日本食肉消費総合センター | 農畜産物等への被害を防止するため捕獲した野生鳥獣の肉（以下、「ジビエ」という。）の一層の利活用を推進するため、ジビエの利用等に関する研究会やシンポジウム、イベントの開催等によりジビエへの消費者等の理解を醸成し、野生鳥獣の捕獲による畜産物の生産環境の保全及び安全確保の推進、農山村地域の所得の向上に資することを目的とする。 | 46,799 |
| 11 | 輸入飼料原料工程管理高度化事業 | 協同組合 日本飼料工業会 | 配合飼料製造管理コストの低減及び安全な国産畜産物供給に資するため、港湾段階における飼料原料について（独法）農林水産消費安全センターの | 27,160 |

| | | | | |
|----|--------------------------|-------------|---|--------|
| | | | モニタリングデータを活用しながら管理基準が新設される見込みのかび毒の汚染実態を把握するとともに、汚染実態に基づく最適な管理体制のあり方について検討し、飼料製造管理コストの低減に資することを目的とする。 | |
| 12 | アミノ酸プロファイルによる不受胎牛の判別事業 | 学校法人 東海大学 | 牛の受胎率の低下が経産牛の分娩間隔の延長や牛の生産基盤の弱体化を招いていることから、受胎・不受胎牛の早期判別により分娩間隔を短縮するため、少量の血液中の血中アミノ酸の解析により瞬時に受胎・不受胎を判別し、すばやく現場に情報を提供できる装置を開発し実用化を図ることを目的とする。 | 54,320 |
| 13 | 肉用牛産肉形質の AI 生体評価法の現場実装事業 | 学校法人 近畿大学 | 人工知能（以下、「AI」という。）を用いて肉用牛の産肉能力を肥育期間中に生体評価する方法を新たに開発し、畜産現場への普及活用を図るため、血清バイオマーカー情報を基盤とする AI の機械学習による生体評価法を検証し、この検証に必要な血清バイオマーカータンパク質の機能と動態の解析情報のデジタル化を行うことにより、AI 生体評価アルゴリズムを適用する飼養管理制御による新しい肥育方法である「データ駆動型スマート肉用牛肥育システム」を確立することを目的とする。 | 85,084 |
| 14 | 日本短角種の高品質赤肉生産開発事業 | 国立大学法人 東北大学 | 北東北と北海道地域で飼育されている日本短角種について、粗飼料利用性と増体成績に優れるが、皮下脂肪が厚く、脂肪交雑が少ないなどの肉質面での改良が課題となっているため、肉質に関与する SNP マーカーなどゲノム情報も含めた新たな肉質評価法を日本短角種の育種改良目標と改良手法に取り入れ、土地に立脚した生産効率の高い高品質赤肉生産開発技術の確立を行うことを目的とする。 | 49,833 |
| 15 | 未出穂型ソルガムの寒冷地栽培・利用事業 | 国立大学法人 信州大学 | 近年の気象災害や鳥獣被害の軽減、地震等の被災地における畜産復興の支援の一助とするため、多収で耐倒伏性に優れ鳥獣被害の少ない未出穂型ソルガムの寒冷地域（寒冷地南部～寒地）における栽培・利用方法を確立し、寒冷地域における未出穂型ソルガムの栽培・利用マニュアルを作成することを目的とする。 | 7,371 |
| 16 | 牛の飼養衛生オントロジー構築事業 | 国立大学法人 広島大学 | 将来の畜産分野における各種 ICT システム間での相互運用性を確保し、データ連携を容易にするため、農業分野で進む共通農業語彙（農作業基本オントロジー、農作物語彙体系）の標準化 | 94,414 |

| | | | | |
|----|------------------------------|---------------|---|--------|
| | | | が畜産・動物衛生分野においても必要であることから、牛の飼養衛生管理を対象としたオントロジーを共通農業語彙の拡張等により開発し、今後の全国版畜産クラウドシステム等の取り組みを支援することを目的とする。 | |
| 17 | 昆虫タンパク質を代替原料に用いた鶏用飼料の有用性評価事業 | 国立大学法人 香川大学 | 将来想定される飼料原料の逼迫を回避し、新しい代替飼料原料の普及定着を推進するため、アメリカミズアブ（ミズアブ、双翅目昆虫）の幼虫を食品残渣で飼育し、得られた虫体を飼料原料として利用（ミズアブ幼虫粉末で飼料原料の一部を代替した飼料を製作し、採卵鶏に給与）した飼料の有用性を検証するとともに、様々な食品残渣でミズアブ幼虫を省力的に大量生産する技術を開発することを目的とする。 | 7,920 |
| 18 | 高泌乳牛の飼養・繁殖管理技術の高度化事業 | 学校法人 東京理科大学 | 高泌乳牛は乳量が多い一方で、養分要求量が高く発情行動が微弱であり、高度な飼養・繁殖管理技術が求められ、結果的に健康状態や繁殖成績の悪化等から供用期間が短縮するリスクが高いことから、高泌乳牛を安定的に飼養管理する技術を確立するため、牛群検定成績や搾乳ロボットデータを活用した受胎性・疾病予測技術とともに、ルーメンバイパスアミノ酸を活用した精密な栄養管理技術を開発することを目的とする。 | 93,586 |
| 19 | 乳牛の分娩間隔短縮のための技術開発事業 | 国立大学法人 北海道大学 | 授精後妊娠に至らなかった牛を早期に発見し、再授精させ、分娩間隔を短縮と生産性の向上を図るため、ペーパーマイクロチップ技術（乳汁を検査用紙に滴下、反応させ、スマートフォンのカメラ機能を利用して色調を読み取り生理活性物質濃度を測定）を応用し、酪農家自身が非妊娠牛を乳汁中のホルモン濃度を測定しスクリーニングする簡便な方法を開発することを目的とする。 | 39,746 |
| 20 | 牛耳介チップの遺伝子解析による生産性向上事業 | 国立大学法人 鹿児島大学 | 出生後の牛に耳標を装着する際に採取される耳介片（耳介チップ）を用いたDNA解析を行うことにより、子牛の将来性（肉用牛、乳用牛の生産性、肉質・乳質等）予想し、飼養管理の円滑化や生産物の高付加価値化、遺伝的疾患への対応等を可能とするため、耳介チップの採取や保存方法の最適化、DNA情報の収集分析と遺伝子多型と表現型との関連解析等を行うことを目的とする次に掲げる事業とする。 | 96,480 |
| 21 | 持続的TMRセンター体制モデル検討事業 | 公立大学法人 秋田県立大学 | TMRセンターを中核とする酪農生産体制（TMRセンター体制）の構築は急速に進んだものの、近年設立後の条 | 6,732 |

| | | | | |
|----|------------------------|-----------------------|--|--------|
| | | | 件変化により不安定化する事例も見られるため、TMR センター体制の不安定化の要因を抽出し、西欧の先進的農業クラスターである英国のマシナリー・リング（農作業受委託の調整組織）の持続安定化のメカニズムを把握するとともに、両者の比較に基づく持続的モデルの提案を行うことを目的とする。 | |
| 22 | 黒毛和牛の魅力創出技術の構築事業 | 国立大学法人 神戸大学 | 国産の黒毛和牛のブランド力の向上を図るため、黒毛和種のモモ肉など赤身部位に高頻度で生じる微小なサシ（脂肪交雑）の発生メカニズムについて、細胞内分子機構を探り、微小なサシに関わる分子の品種間比較を実施し、微小なサシの指標を検討するとともに、海外大学と大学間交流を図り、特別セミナーを開催し、国産畜産物に関する情報発信を行うことを目的とする。 | 4,487 |
| 23 | 豚肉の理化学特性解析と飼料による高品質化事業 | 国立大学法人 新潟大学 | 豚肉の美味しさに脂肪がどのように影響するかということが明らかになっていない部分が多いため、メタボローム解析、色調、官能評価等により豚肉の美味しさに関わる要因を解析する。特に、リジンによるグルタミン酸量の調節と筋間脂肪の調節の作用機序を理化学・生化学的手法、官能評価を用いた解析を行うとともに、飼養試験により美味しさ成分を増加させる飼料給与条件を決定し、飼養技術を確立することを目的とする。 | 7,912 |
| 24 | 畜産環境対策技術総合設計基準調査普及事業 | 一般財団法人 畜産環境整備機構 | 家畜飼養規模の拡大、飼養方式・技術の進展、新たな家畜排せつ物処理技術の導入等に伴い大きく変化した畜産環境対策技術に対応するため、これらに対応した適切かつ総合的な設計基準について関係情報等を調査収集・編纂し、畜産農家及び指導機関等の現場に普及することを目的とする。 | 90,527 |
| 25 | 海外・国産豚肉肉質評価等推進事業 | 一般社団法人 食肉科学技術研究所 | T P P 1 1 協定や日 E U 経済連携協定の発効等に伴い、今後、豚肉の国際競争が激しくなるため、海外の豚肉とわが国の豚肉の肉質や脂肪の理化学分析や物理的特性の分析、官能検査等を行い、海外とわが国の豚肉との違いを客観的、科学的に明らかにすることを目的とする。 | 23,410 |
| 26 | 食肉輸出の食肉処理技術等マニュアル作成事業 | 公益財団法人 日本食肉生産技術開発センター | 食肉の輸出を促進するため、輸出相手国が求める方法で食肉の処理ができるように輸出国先別の食肉処理技術等に関するマニュアルを作成するとともにその普及を図ることを目的とする。 | 9,750 |

| | | | | |
|----|------------------------|-----------------|--|--------|
| 27 | 成鶏処理流通円滑化推進事業 | 一般社団法人 日本養鶏協会 | 成鶏のアニマルウェルフェア（以下、「AW」という。）に配慮した輸送・保管並びに成鶏肉の消費拡大を推進するため、AWに対応した鶏生体輸送容器の検討及びモデルの作成・普及を図り、国際的なAWへの取組に対応するとともに、鶏本来の旨味と歯応えを味わえる成鶏肉の消費拡大を図ることを目的とする。 | 9,890 |
| 28 | AWに配慮した家畜輸送等指針普及事業 | 公益社団法人 畜産技術協会 | アニマルウェルフェア（以下、「AW」という。）に関する国際基準に対応するため昨年度策定した「家畜の輸送」と「農場内の殺処分」の指針について、畜産現場へ普及・推進するため、国内外の実態や課題等に関する情報収集等を行い、指針の補完資料等を作成するとともに、関係者へ配布することを目的とする。 | 12,636 |
| 29 | めん羊・山羊の種畜生産供給体制整備事業 | 公益社団法人 畜産技術協会 | 国内におけるめん羊・山羊の種畜生産供給体制の整備が喫緊の課題であることから、種畜の生産供給体制の整備・維持に必要な検討を行うための意見交換や調査等を実施するとともに、種畜生産等に必要な技術を持つ管理者等を育成することで、めん羊・山羊の供給体制整備や種畜生産の促進を図ることを目的とする。 | 18,790 |
| 30 | ダチョウ飼養アニマルウェルフェア対応推進事業 | 日本オーストリッチ事業協同組合 | アニマルウェルフェア（以下、「AW」という。）の考え方に対応したダチョウの飼育管理を普及するため、飼育実態を調査し、AWの考え方に対応したダチョウの飼養管理指針を作成するとともに、関係者等に普及を行うことを目的とする。 | 1,726 |
| 31 | AWの科学的評価法確立と実証拠点農場構築事業 | 公益財団法人 農村更生協会 | 家畜のアニマルウェルフェア（以下、「AW」という。）に対する科学的評価法を確立するため、酪農、養鶏及び養豚を対象とした飼養形態別の家畜の幸福度計測と実証拠点農場を構築し、AWの科学的評価法についての成果を普及することを目的とする。 | 65,081 |
| 32 | 乳牛預託保育・育成牧場の飼養管理実態調査事業 | 国立大学法人 北海道大学 | わが国の酪農業において後継牛の育成と安定生産を図るため、多様な預託牧場の飼養管理の実態調査、預託牛の健康と成長の長期調査並びに分娩後の生産成績との照合調査を行い、飼養管理、健康・成長、生産成績との関連を明確にするとともに、耐久性の高い後継牛育成のための飼養管理システムの適正化手法を提示することを目的とする。 | 39,781 |
| 33 | 肉用牛の生産性評価精度向上推進事業 | 公益社団法人 全国和牛登録協会 | 家畜改良増殖目標において、飼料の利用性や生産性の向上とともに遺伝的多様性を考慮した種畜選抜が必要とされているため、飼料の利用性の遺伝 | 44,014 |

| | | | | |
|----|--------------------|--------------------|--|---------|
| | | | 的能力評価については、DNA情報を活用した評価精度の向上を図り、選抜指標としての活用を促進するとともに、生涯生産性の評価については、遺伝的多様性と生涯生産性との関連性について調査し、遺伝的多様性を維持しながら生涯生産性に優れた個体を選抜するための方法について検討することを目的とする。 | |
| 34 | 放牧畜産物生産普及推進事業 | 一般社団法人 日本草地畜産種子協会 | 農産物の国際競争力の強化に対応するため、安定的に低コスト生産が可能で、環境保全やアニマルウェルフェア（以下、「AW」という。）にも配慮しており、消費者からの理解が得やすい放牧利用型畜産について、その安全・安心な生産体制を確保するとともに、放牧畜産物の世界仕様の評価基準を整備することを目的とする。 | 115,156 |
| 35 | 高タンパク飼料用稲調査事業 | 一般社団法人 日本草地畜産種子協会 | 飼料用稲の飼料価値の向上により、家畜の繁殖成績の改善及び飼料自給率の向上を図るため、流通している飼料稲の品種や飼料用として有望な系統の中からタンパク質含有量の多い品種を評価・選定するとともに、その能力を発揮するための栽培技術を確立することを目的とする次に掲げる事業とする。 | 112,176 |
| 36 | 中小規模畜産経営ICT化支援事業 | 公益社団法人 畜産技術協会 | 中小規模経営が安定・持続して畜産経営を行えるよう、近年開発が進んでいるICT機器による技術的な支援を行うため、モデル農家を対象にICT機器を導入し、生産、経営等への改善効果を調査するとともに、セミナー等で普及啓発を行うことを目的とする。 | 16,967 |
| 37 | 牛繁殖基盤強化技術向上特別事業 | 一般社団法人 日本家畜人工授精師協会 | 牛の人工授精における直腸検査技術の正確性を向上させ繁殖基盤の強化を図るため、超音波検査技術の指導者の育成と実技研修会を開催し授精技術を習得させるとともに、性選別精液等を用いた繁殖状況の調査を行い、その情報を提供することを目的とする。 | 35,905 |
| 38 | 国産食肉加工品国際競争力強化対策事業 | 日本ハム・ソーセージ工業協同組合 | TPP11及び日EU・EPAの発効により、原料や加工資材の安定確保上のリスクが高まっている中、国内産業の振興と国際競争力の強化を図るため、国産食肉加工品の脅威となりうる海外製品の品質・消費・販売実態等を把握することを目的とする。 | 65,325 |
| 39 | 乳房炎高発牛の鑑別技術開発事業 | 国立大学法人 東京農工大学 | 乳牛で多発し最難治疾病の一つとも言われる乳房炎において、経験的に乳房炎に罹りやすい個体や形質の存在が疑われているものの、その因子の同定には至っていないため、最新のゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクスなどのオミックス解析を駆使 | 60,784 |

| | | | | |
|----|---------------------------------------|---------------|--|--------|
| | | | することにより、乳房炎発症を繰り返す個体群と健康な個体群の違いを解明し、乳房炎発症リスクの高い乳牛の鑑別を可能にする技術を開発することにより、乳房炎に強い牛群の選抜等を可能とすることを目的とする。 | |
| 40 | 鼻疽菌潜伏感染馬の摘発に向けた新規血清診断法の開発事業 | 国立大学法人 北海道大学 | 人畜共通感染症であり家畜伝染病に指定されている鼻疽について、近年ドイツで60年ぶりの発生が見られるなど、国内に潜伏感染馬が持ち込まれる可能性も否定できないため、鼻疽菌が潜伏感染する無症状馬の摘発に有効な新規血清診断法を開発するとともに、鼻疽の発生地域であるモンゴルにおいて疫学調査を行い、採取血清の抗体の有無と鼻疽菌が含まれないことを確認した後、本大学の人畜共通伝染病リサーチセンターにおいて実験を行うことを目的とする。 | 7,020 |
| 41 | 感染子牛育成センターを利用した地域で持続可能な牛白血病清浄化モデル開発事業 | 国立大学法人 岩手大学 | 牛白血病ウイルス感染・黒毛和種農場清浄化モデルを開発するため、牛白血病ウイルス量を指標として感染牛を高度または低度に区分し、高度感染牛は早期出荷等を指導、高度感染牛になり易い分娩直後の感染子牛は分離飼育し感染の拡大防止を図りつつ、発症リスクの評価と発症機構の解明を行う。一方、低度感染牛と非感染牛のみとなった農場では防除対策を徹底し、非感染牛への感染伝播リスクと農場の経済性を評価する。これらの飼養管理モデルを提案し、牛白血病に関する知識普及のための研修会を開催することを目的とする。 | 86,994 |
| 42 | 引退馬のQOL向上のための動物福祉事業 | 国立大学法人 鹿児島大学 | 競馬や乗馬から引退した馬の生活の質（以下、「QOL」という。）の向上を図り、馬と人との共存体制の確立に資するため、引退馬の飼養管理状況、健康状態及び防疫状況を十分に調査した上で適切な飼養管理・防疫指導を行うとともにガイドラインを作成するとともに、高齢引退馬に特有である疾患（心疾患等）の精密検査によりその詳細を明らかにし、引退馬をより快適で健康的に飼養するための指針を策定することを目的とする。 | 28,471 |
| 43 | 適切な資材での消毒による飼養衛生対策強化事業 | 国立大学法人 東京農工大学 | 畜産農場において、飼養衛生管理基準を遵守しながら、消毒資材を適材適所で正しく用いることが重要であるため、特に、瞬時に病原体を不活化できる資材、不活化に長時間を要する資材、低温下や有機物存在下では効果が著しく減弱する資材、長距離の噴霧により失活する資材、組み合わせることで相乗的に殺微生物効果が高まる資 | 11,903 |

| | | | | |
|----|-------------------|--------------------|--|-----------|
| | | | 材など、それぞれの資材の特徴を理解し、適材適所で用いることで、農場バイオセキュリティを強化する方法を確立することを目的とする。 | |
| 44 | ダチョウ防疫強化対策事業 | 日本オーストリッチ事業協同組合 | ダチョウ飼育農場等の防疫対策の強化を図るため、平成29年度に実施したダチョウ防疫強化対策事業で作成したダチョウ農場防疫マニュアルを活用し、農場への現地指導を実施し、併せて、同マニュアルの生産現場での活用状況を調査するとともに、事業の報告書を関係事業者等々に配布し、ホームページに公開し、周知を図ることを目的とする。 | 2,798 |
| 45 | 乗用馬防疫推進事業 | 公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会 | 乗馬クラブ等で飼養されている乗用馬において、馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風等の伝染性疾病発生の予防推進を図ることを目的とする。 | 36,827 |
| 46 | 家畜防疫・衛生指導対策事業 | 公益社団法人 中央畜産会 | 家畜伝染病の発生予防、まん延防止等を確実かつ効率的なものとするため、国家防疫措置に併せて、地域における重要な家畜疾病を対象とした防疫演習、慢性感染症対応、馬伝染性貧血防疫等の自衛防疫活動を推進するとともに、家畜衛生の向上と家畜・畜産物の安全性を確保する上で重要なツールである農場 HACCP 認証に必要な審査員の養成、力量向上、認証取得の導入促進となる推進農場の構築手順の提供等、家畜衛生対策を総合的に実施することを目的とする。 | 1,081,440 |
| 47 | 馬飼養衛生管理特別対策事業 | 公益社団法人 中央畜産会 | 多様化している馬の飼養衛生管理の充実強化を図るため、馬飼養衛生管理に必要な感染症の知識習得、技術指導書の作成、地域馬の飼養状況や衛生管理に関する実態調査等を行うことを目的とする。 | 48,001 |
| 48 | 馬伝染性疾病防疫推進対策事業 | 公益社団法人 中央畜産会 | 馬インフルエンザ、馬鼻肺炎等伝染性疾病の発生防止の徹底及び日本脳炎、破傷風等疾病に対する高い免疫確保等を図るため、生産者等と一体となったワクチン予防接種等を行うことを目的とする。 | 220,980 |
| 49 | 繁殖エリート種雄牛作出技術開発事業 | 一般社団法人 家畜改良事業団 | 牛の受胎率の低下を雄側から改善することができる繁殖エリート種雄牛を作出するため、多くの種雄牛から受胎性や精液生産性といった繁殖形質に関する表現型データを蓄積し、これらと DNA 変異や遺伝子発現といったデータとの関連性を解析することにより、繁殖能力の優良因子の特定及び利用方法の検討を行うとともに、種雄牛の繁殖能力検査法として繁殖性を反映する SNP 型（一塩基多型）等の頻度モニタリングを行い能力検査 | 94,012 |

| | | | | |
|----|-------------------------|---------------------|--|--------|
| | | | の信頼性を高めることを目的とする。 | |
| 50 | 低侵襲・簡易迅速な牛の早期妊娠判定技術開発事業 | 国立大学法人 北海道大学 | 牛の受胎率低下や空胎期間の延長による生産性低下の防止方法として、授精処置後から次発情前に妊娠の有無を検出・判定し、人工授精などの再受胎処置を迅速に行い空胎期間を短縮することが有効であるため、新たに発見した外子宮口や膣底部粘膜でおこる高い妊娠応答遺伝子の発現を簡易、迅速、低侵襲、低コストで検出可能な技術について、機器開発を含めて実証・実施することを目的とする。 | 54,452 |
| 51 | 子牛への糞便移植の技術基盤形成と疾病制御事業 | 国立大学法人 東北大学 | 難治性下痢症の治療に用いられる罹患子牛への健全育成子牛の糞便移植が、劇的な症状緩和を可能にする革新的治療法であるため、メタゲノムおよびメタボローム解析を用いて糞便移植の意義を科学的に明らかにするとともに、移植糞便の優良ドナーの糞便由来有用微生物等のカクテル化と、家畜生産現場への安定供給を可能にする技術を開発し、広く普及させるための基盤を形成することを目的とする。 | 48,880 |
| 52 | 農耕馬のホースワーク可能性に関する実証事業 | 公立大学法人 岩手県立大学 | 農耕馬の需要が低下し農耕馬が減少しつつある中で馬搬、馬耕など農耕馬本来の仕事のほか、草原再生による自然環境保全など農耕以外の分野で農耕馬の活用が増えつつあるため、農耕馬の持つ可能性を最大限に生かすための新たなホースワークについて検討するとともに実証実験等を行い農耕馬の働く場を確保し、農耕馬の維持、増加を図ることを目的とする。 | 8,937 |
| 53 | 四倍体飼料用イネの開発事業 | 国立大学法人 北海道大学 | 水田を有効に利用できる新しい飼料用イネとして、粳の収量の増加だけではなくホールクロップとして全体収量を大きくするため、薬培養技術を利用してバイオマス（作物資源量）が大きく成長が旺盛な四倍体飼料用イネを育成することを目的とする。 | 12,000 |
| 54 | 遺伝子型を利用した子牛損耗等防止対策事業 | 一般社団法人 家畜改良事業団 | 乳・肉用種の子牛生産性の向上のため、生産性低下の原因となる遺伝子変異と既存の遺伝的不良形質を同時に検査可能な手法を開発し、国内種雄牛及び繁殖雌牛の大規模な検査を行い、生産性への影響を確認するとともに、得られた知見を遺伝的不良形質専門委員会へ情報提供することを目的とする。 | 90,803 |
| 55 | 豚における抗菌剤慎重使用のための病性鑑定事業 | 学校法人 麻布獣医学園 麻布大学 | 薬剤耐性菌の制御が公衆衛生上喫緊の課題であり、畜産分野における耐性菌の発生抑制のために抗菌剤の適正な使用が求められるが、正確な病性鑑 | 20,257 |

| | | | | |
|----|-------------------------|-----------------|---|---------|
| | | | 定が必須であるため、全国の農場数か所で発生した死亡豚もしくは鑑定殺豚を病性鑑定し養豚管理獣医師に報告することで、養豚経営における抗菌剤使用状況を改善し、抗菌剤使用量を低減することを目的とする。 | |
| 56 | 在来馬等の里山での活用に向けた育成事業 | 一般社団法人 馬搬振興会 | 馬搬技術の振興と継承、馬事振興を図り、在来馬である木曾馬等の育成調教により、農業で安全に活用できる馬の供給や頭数増加を図るため、馬取扱者を対象とした研修会やシンポジウム等を開催するなど、馬搬技術を継承する人材育成を行うことを目的とする。 | 10,754 |
| 57 | 地鶏普及推進事業 | 一般社団法人 日本食鳥協会 | 地鶏の振興を図るため、消費者等に対し、地鶏の生産から流通、小売、消費に亘る各種情報を発信し、地鶏への理解の醸成に努めるとともに、零細規模の生産者が連係して地鶏の販路拡大の取組を支援する等により、安定的な販路を確保し、もって、食生活の多様化、地域経済の発展及び輸出の促進等に資することを目的とする。 | 76,359 |
| 58 | 乳用牛ゲノミック情報利活用促進事業 | 一般社団法人 家畜改良事業団 | 乳用牛ゲノミック評価（以下、「G情報」という。）について、その利用方法が酪農家に十分に認識されておらず、一部の酪農家が利用するのみで十分な活用に至っていないため、G情報を利用した子牛段階での優良雌牛選定と更新牛生産、優良牛増産等のモデル実証とそれらを可能とするG情報利活用システムを構築・提供し、酪農家のG情報の高度利活用の促進と優良牛群の整備、生乳生産量の維持を図ることを目的とする。 | 57,380 |
| 59 | 野生いのししによる豚コレラウイルス拡散防止事業 | 公益社団法人 中央畜産会 | 岐阜県及び愛知県において、豚コレラ陽性の野生いのしし（以下「陽性のしし」という。）が確認される事例が相次ぎ、ウイルスが浸潤しているエリアも拡大が続いている現状に鑑み、野生いのししによる豚コレラウイルスの拡散防止を図るため、経口ワクチンの散布・回収、消毒ポイントの設置による車両等の消毒、野生いのししの検査等を行う。 | 678,681 |
| 60 | 国産豚肉生産性・品質向上のための緊急調査 | 公益社団法人 日本食肉格付協会 | 我が国養豚産業は、TPP11、日EU・EPAの発効、日米物品貿易協定の大枠合意といった新たな国際環境に直面しているが、とりわけ低コストでの生産とチルドでの輸入が可能な米国産豚肉に対抗するため、国産豚肉の差別化を強力に推進していくことが喫緊の課題となっている。このため、国産豚肉の生産性・品質向上を目指す生産者による改良の推進や生産技術の改善といった取組に資する部分肉歩 | 79,449 |

| | | | | |
|-----|---------------------|-------------|---|-----------|
| | | | 留、豚肉の成分組成の精度の高い評価手法を開発する。 | |
| 61 | 飼料生産におけるツマジロクサヨトウ対策 | 国立大学法人 宮崎大学 | 本年7月に、飼料用トウモロコシ圃場において、我が国で初めてツマジロクサヨトウが確認され、使用可能農薬リストを含む緊急対策が公表された。しかし、農業現場には本害虫の的確な防除のための情報がない。したがって本事業では、緊急に国内における被害実態や海外情報を調べ、必要な知見を収集・整理し、飼料生産における本害虫の効果的防除と安心・安定的な飼料生産に向けた技術指導マニュアル及び技術普及資料を作成・公知する。 | 57,003 |
| 小 計 | | | | 4,462,093 |

(注) 上記の各事業は、(公財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

| 事業名 | 事業実施主体 | 事業内容 | 実績額 (千円) |
|------------|--------|--|-------------|
| 畜産振興事業附帯事業 | 本会 | 学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。 | 103,929 |
| 小 計 | | | 103,929 |
| 総 計 | | | 4,566,022 |

J R A 賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

| | 受賞馬 | (馬主) | (厩舎) |
|-----------|-----------|---------------|-------------|
| 年度代表馬 | リスグラシュー | (有) キャロットファーム | 栗東・矢作 芳人 厩舎 |
| 最優秀2歳牝馬 | コントレイル | 前田 晋二 氏 | 栗東・矢作 芳人 厩舎 |
| 最優秀2歳牝馬 | レシステンシア | (有) キャロットファーム | 栗東・松下 武士 厩舎 |
| 最優秀3歳牝馬 | サートウルナーリア | (有) キャロットファーム | 栗東・角居 勝彦 厩舎 |
| 最優秀3歳牝馬 | グランアレグリア | (有) サンデーレーシング | 美浦・藤沢 和雄 厩舎 |
| 最優秀4歳以上牝馬 | ウインブライト | (株)ウイン | 美浦・畠山 吉宏 厩舎 |
| 最優秀4歳以上牝馬 | リスグラシュー | (有) キャロットファーム | 栗東・矢作 芳人 厩舎 |
| 最優秀短距離馬 | インディチャンプ | (有)シルクレーシング | 栗東・音無 秀孝 厩舎 |
| 最優秀ダートホース | クリソベリル | (有) キャロットファーム | 栗東・音無 秀孝 厩舎 |
| 最優秀障害馬 | シンゲンマイケル | 伊坂 重憲 氏 | 美浦・高市 圭二 厩舎 |

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

| | |
|-----------|-------------|
| 最多勝利調教師 | 安田 隆行 (栗東) |
| 最高勝率調教師 | 中内田 充正 (栗東) |
| 最多賞金獲得調教師 | 矢作 芳人 (栗東) |
| 優秀技術調教師 | 中内田 充正 (栗東) |

②騎手部門

| | |
|----------|--------------|
| 最多勝利騎手 | C. ルメール (栗東) |
| 最高勝率騎手 | 川田 将雅 (栗東) |
| 最多賞金獲得騎手 | C. ルメール (栗東) |
| MV J | C. ルメール (栗東) |
| 最優秀障害騎手 | 森 一馬 (栗東) |
| 最多勝利新人騎手 | 斎藤 新 (栗東) |

◎地方競馬全国協会を通じた交付金の交付

【競走馬生産振興業務への交付】

- 地方競馬全国協会が行う、軽種馬流通促進・経営基盤強化対策等の「競走馬生産振興業務」に対し1,320,000,000円を交付

【認定競馬活性化計画補助業務への交付】

- 地方競馬全国協会が行う、認定都道府県等に対する「認定競馬活性化計画補助業務」に対し1,150,264,300円を交付